



# OfficeRight™ Document Inserting System DI380



**取扱説明書**



# 目次



## 第 1 章 はじめに

セーフティ.....	1-1
DI380 の特長.....	1-2
機器の構成.....	1-2
各部の名称.....	1-4
コントロールパネル.....	1-6

## 第 2 章 操作

この章の内容.....	2-1
電源の接続.....	2-1
ジョブの選択.....	2-2
テストの実行.....	2-3
処理の開始.....	2-3
シートフィーダーの設定.....	2-4
封筒フィーダーの設定.....	2-6
インサートフィーダーの設定.....	2-6
封緘水の補充.....	2-8
スタッカーの調整.....	2-8
ジョブの設定.....	2-9
新規ジョブの作成.....	2-9
ジョブ設定の確認.....	2-20
ジョブのテスト.....	2-21
ジョブの変更.....	2-22
ジョブの削除.....	2-22

## 第 3 章 OMR

OMR の使用 .....	3-1
OMR とは.....	3-1
OMR の簡単な概要 .....	3-1
OMR のレベル .....	3-2
OMR マークの位置 .....	3-2
OMR の仕様 .....	3-3
使用できる OMR マーク .....	3-6
OMR マークのグループ.....	3-8
OMR ジョブの設定 .....	3-10
OMR スキャナーの調整.....	3-16
OMR のトラブルシューティング .....	3-18

## 第 4 章 リファレンス

表示言語の変更.....	4-1
マテリアルの除去 .....	4-1
トラブルシューティング全般.....	4-5
エラーメッセージ .....	4-10
マテリアルの仕様 .....	4-13
機械の仕様.....	4-17

## セーフティ

一部の国では、コンセントへの接続用リードとプラグが装置に付いている場合があります。それ以外の国、または付属のリードを使用しない場合は、以下の情報を参照してください。

1. その国で承認されているコンセントへの接続用リードを使用してください。
2. 装置に付属のコンセントへの接続用リードのコードの色は、プラグの端子を識別する色とは異なる場合があるため、以下のように処理してください。
  - 緑色と黄色のコードは、「E」という文字またはアース記号  $\perp$  が書かれたプラグの端子に接続するか、緑色のみまたは緑色と黄色の端子に接続します。
  - 青色のコードは、「N」と書かれた端子または黒色の端子に接続します。
  - 茶色のコードは、「L」と書かれた端子または赤色の端子に接続します。
3. コンセントへの接続用リードのコードは、以下のように色分けされています。

緑色および黄色	-	アース
青色	-	中性
茶色	-	通電



### 警告：

**この装置はアースする必要があります。**

電源プラグは機器の近くの簡単に手が届く場所に置いてください。

健康および安全基準を守るために、お使いになる場合には、事務用機器の操作に関する地域のあらゆる安全基準に従ってください。特に、本機のカバーを取り外さないようにしてください。サービスについては、弊社カスタマーサービス部または販売代理店までお問い合わせください。

手、宝石類、ネクタイ、髪の毛などを可動部分へ絶対に近づけないでください。

# 1・はじめに

---

## DI380 の特長

DI380 インサートシステムは、簡単にセットアップや操作ができ、次のような機能があります。

- 封筒の封緘オプション（封緘する／封緘しないを選択）
- 全自動シートフィーダーマテリアル分離機能
- 全自動紙折りプレート設定
- 全自動封筒分離機能
- 全自動ドキュメント二重検知（選択した場合）
- 折りだけのオプション（紙折機としても利用できます）
- 1枚または複数メールピースの手差しフィード／半自動封入
- 二つ折り、内三つ折り、外三つ折り、四つ折りのオプション
- ジョブの取り消し機能
- リンクフィード（3ステーションモデルのみ）

## 機器の構成

以下の機器構成を使用できます。

- 1ステーション – シートフィーダー 1つのみ
- 2ステーション – シートフィーダー 1つ、インサートフィーダー 1つ
- 3ステーション – シートフィーダー 2つ、インサートフィーダー 1つ

**重要：** 使用可能なモデルおよび機能は、使用する国によって異なります。詳細は、機器の販売元にお問い合わせください。

本書では、すべてのモデルおよび機能について解説しています。ただし、本書に記載されているモデルまたは機能が一部使用できない場合があります。

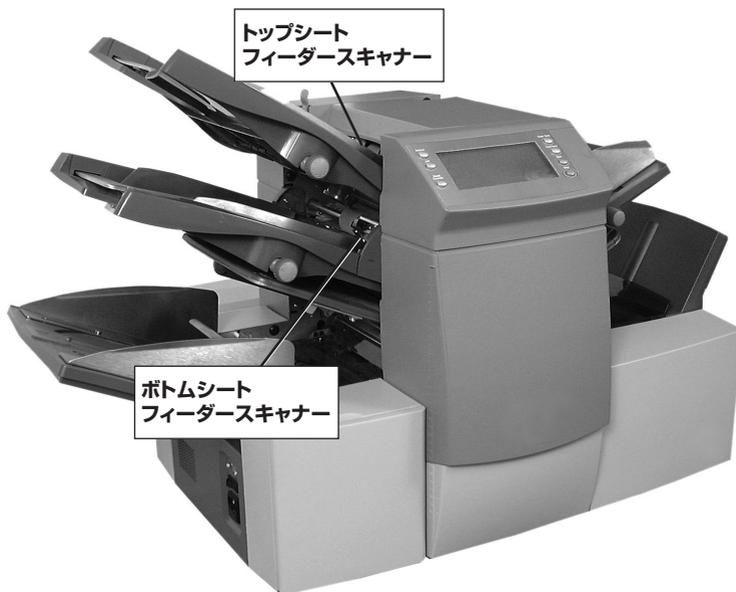
処理速度は機器の構成によって異なります。詳細は、第 4 章の「仕様」を参照してください。

システムには、購入時または購入後の追加オプションとして、OMR (光学式マーク読み取り) 機能を装備できます。

OMR マークは通常、淡色の用紙に印刷された濃い色の実線で、用紙の搬送方向に垂直に印刷されています。この線は、システムの OMR スキャナが正しく反応するのに十分な太さと濃さである必要があります。

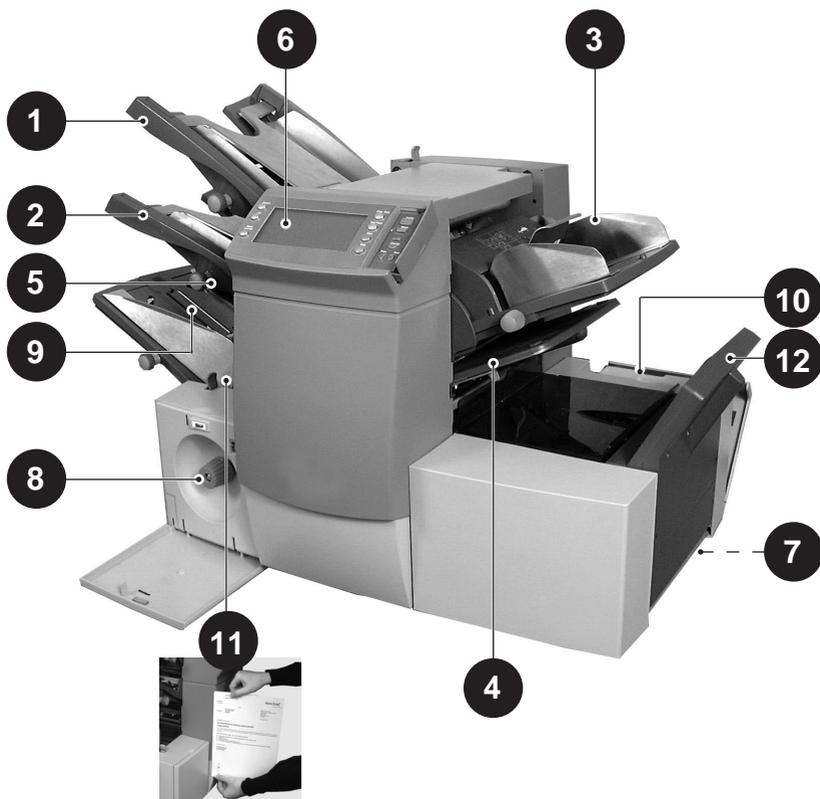
OMR スキャナは、OMR システム ソフトウェアと連動して、システムによってフィードされる文書上にある 1 つ以上の各種 OMR マークを確認します。これらの OMR マークをトラッキングすることにより、シートセットは、実際の封入処理全体を通して、ばらばらになることなく、セットのままである可能性が高くなります。

OMR 装備のモデルは、各シートフィーダーにスキャンヘッドを装備しています。OMR 機能の使い方について詳しくは、本書の第 3 章を参照してください。



# 1・はじめに

## 各部の名称



- 1 シートフィーダー 1** 折りが必要な用紙をフィードする場合に使用します。このシートフィーダーは「手差しフィード」に設定が可能です。このモードでは、5枚までのホッチキス留めの書類を扱うことができます。機器は各セットがシートフィーダー 1 に手動でフィードされるまで待ってから、紙折りをを行い、封筒に自動封入します。使用できるセットの詳細については、このガイドの「仕様」の項を参照してください。
- 2 シートフィーダー 2** 折りが必要な用紙をフィードする場合に使用します。この機能はシートフィーダー 1 と同様ですが、「手差しフィード」はできません。

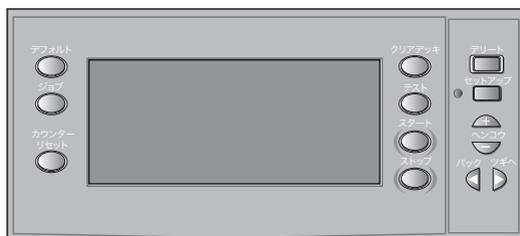
- 3 インサートフィーダー** 封入物を封筒に追加したい場合は、このフィーダーを使います。このフィーダーからフィードされたマテリアルを折ることはできません。ただし、あらかじめ折られたものや厚手の封入物をフィードするには便利です。
- 4 折りプレート 1 / 折りプレート 2** シートフィーダーからフィードされたマテリアルを任意に設定された折りにするために使われます。折りプレートは、折りの設定をすると自動的にセットされます。
- 5**
- 6 ディスプレイ / コントロールパネル** コマンドを入力して使用します。また記号とアイコンで本機のステータスを確認できます。各ボタンの機能についての詳細は、次のページで説明しています。
- 7 排出スタッカーまたは排紙装置 (図には示されていません)**

本機の出口に、完成したメールピースを集めるための折たたみ式のスタッカーがあります。このスタッカーは、使用しない時はしまい込むことができます。標準の排出スタッカーの代わりに、大容量のパワースタッカーを使用できます。

郵便料金計器を取り付けることで、メールピースを Pitney Bowes メールピース作成機に自動転送して、「郵便料金別納」の印影を印字することもできます。
- 8 手動クランク** 手動クランクは、前面左のカバー内にあります。マテリアルが機械の中で引っかかったりした場合に、手動でノブを回して障害物を取り除きます。
- 9 封筒フィーダー** このフィーダーは、封筒を封入エリアに送り、そこで他のフィーダーから送られたマテリアルが封筒に封入されます。
- 10 封緘水ボトル** 機器の右前面にあるカバーを開けた内側にあります。シーラーに供給する封緘水が入っています。
- 11 スケール** スケールは、本機の左側、シートフィーダーの近くにあり、マテリアルや封筒の寸法を測るために使用します。
- 12 封筒インバーター** 封入された郵便物はこの部分を通して、封筒を表向きにしてスタッカーに排出します。

# 1・はじめに

## コントロールパネル



### コントロールパネルのボタン

**デフォルト** このボタンを押すと、機械がデフォルトまたは「標準」の設定に戻ります。これらの設定は工場出荷時にあらかじめ設定されたものですが、ご使用になる際に、弊社担当者が変更することができます。

**ジョブ** これを押すと、設定済みのジョブを実行します。本機には、20種類のジョブを記憶させることができます。ジョブの設定について詳しくは、2-9 ページを参照してください。

**カウンターリセット** このボタンを押すとアイテム、またはバッチカウンターがリセットされます。

**クリアデッキ** このボタンを押すと、機械の中に残っているマテリアルを排出します。作業を中止した後などで機械を自動処理に復帰させる時などに使用します。

**テスト** このボタンを押して、テストを実行し、機器の設定を確認できます。[スタート] ボタンを使って、自動処理を開始する前に、テストを実行する必要があります。二重検出を使用している場合、本機はテストを行うように自動的に調整されます。このときの封筒は封をされず、かつ 1 アイテムとして数えられます。

**スタート** 自動処理を開始します。

**ストップ** 自動処理を停止させます。ただし、ストップボタンを押した時点で作業中のサイクルが終了後に封入封緘は停止されます。

**デリート** セットアップ モードで使用します。プログラムされたジョブを削除します。

**セットアップ** このボタンを押すと、本機はセットアップモードになります。このモードでは、ジョブを設定できます。設定されたジョブは、[ジョブ] ボタンを使って、簡単に呼び出すことができます。

**ヘンコウ** + - セットアップモードで、オプションを設定したり、機器の設定値を設定するのに使用されます。

**バック** ◀ ▶ **ツギへ** セットアップモードで、さまざまな設定オプションを選択するときに、前に戻ったり、次に進んだりする場合に使用します。

## ディスプレイアイコン



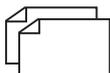
シートフィーダーが二重検出を使用**しない**状態であることを表示します。



シートフィーダーが二重検出を使用**する**状態であることを表示します。



インサートフィーダーが二重検出を使用**しない**状態であることを表示します。



インサートフィーダーが二重検出を使用**する**状態であることを表示します。



シートフィーダー 1 が、手差しフィードであることを表示します。



封筒フィーダーが稼働できる状態であることを表示します。

..3..

封筒ストップの設定 (1 ~ 5) を表示します。



封緘ボトルの水を補充する必要があります。



封筒の深さ寸法を表示します。



封緘ユニットが作動しないことを表示します (封筒は封緘されません)。

# 1・はじめに

## ディスプレイアイコン（続き）



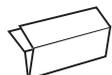
シーラーが作動していることを表示します（封筒が自動封緘されます）。



内三つ折りが選択されていることを表示します。



外三つ折りが選択されていることを表示します。



四つ折りに設定されていることを表示します。



二つ折りに設定されていることを表示します。



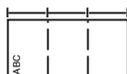
折りなしのまま封入されることを表示します。



紙詰まりが起きていることを表示します。この記号が表示されている位置で紙詰まりが起きています。



このアイコンが表示された場合は、機器の販売元にお問い合わせください。



シートフィーダーの用紙寸法、挿入する用紙の向き、折り方を表示します。



パワースタッカーや郵便料金計器（MMI）などの「下流の」装置で紙詰まりが起きたことを表示します。

### この章の内容

この章では、本機の操作方法を説明します。実行するジョブがすでにシステムに設定されていることを前提にしています。

ジョブがプログラムされていない場合は、2-9 ページの「ジョブの設定」を参照してください。

### 電源の接続

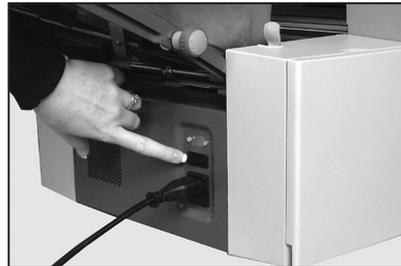


電源コードを機器に接続する前に、1-1 ページの「安全にご使用いただくために」をお読みください。

電源コードを機器の左側にあるソケットに接続します。

電源コードを適切なコンセントに差し込みます。コンセントが機器の近くにあり、簡単に手が届くことを確認してください。

電源スイッチをオンにします。



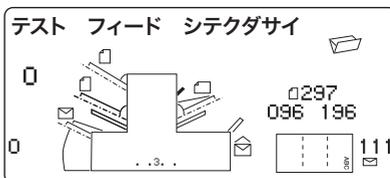
## 2・操作

### ジョブの選択

本機の電源がオンになると、ディスプレイに直前に実行したジョブと「テスト フィード シテクダサイ」というメッセージが表示されます。

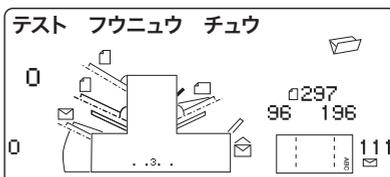
必要なジョブが表示されるまで[ジョブ]ボタンを押すか、本機を「標準」のジョブ設定で実行する場合は、[デフォルト]を押します。

**注：**デフォルトジョブの内容を変更できるのは、弊社の担当者だけです。



用紙をフィーダーにセットしたら、[テスト]を押します。機器が自動的に設定されて、テストを実行します。

用紙をフィーダーにセットしていない場合は、セットしてから、[テスト]を押してください。用紙をフィーダーにセットする方法については、2-4～2-7ページを参照してください。



#### 注：

丁合い済みセットを手差しでフィードするために、シートフィーダー 1 を「手差しフィード」に設定している場合があります。この場合、丁合いセットは、必要に応じて、一度に 1 部ずつ給紙されるため、シートフィーダーにはセットしないでください。

手差しの場合は、図に示されたレバーを手前に引いて、フィード装置を開きます。自動でフィードさせる場合は、このレバーを通常的位置に戻すことを忘れないでください。



## テストの実行

マテリアルのセットを終えたら、[テスト] を押して、正しくセットアップされているかどうかを確認できます。

テストで微調整が必要な場合、この段階でジョブ設定に多少の変更を加えることができます。2-9 ページの説明に従って、設定を入力し、必要に応じて、[バック] (◀)、[ツギへ] (▶) および [ヘンコウ] (+/-) ボタンを使って、ジョブ設定を変更します。必要な変更を行ったら、[セットアップ] をもう一度押して、実行モードに戻ります。ジョブは新しい設定で保存されます。

### 注：

1. リンクフィードを使用する場合は、**両方**のシートフィーダーに用紙を載せてからテストしてください。
2. 特性（重さ、色合いなど）が異なるマテリアルをセットする場合や、二重検知機能に問題がある場合は、もう一度テストを実行してください。これにより、バッチが少し異なる場合に新しいマテリアルに対する二重検知機能を再調整できます。

## 処理の開始

[スタート] を押して、自動処理を開始します。

一度 [スタート] ボタンを押すと、マテリアルがなくなるか、[ストップ] ボタンを押すまで、処理が続きます。

**注：**リンクフィードに設定された場合には、ディスプレイには、「1 > 2 > 1」と表示されます。

これは、フィードの切り替えがシートフィーダー間で自動的に行われることを示しています。詳しくは、2-13 ページを参照してください。

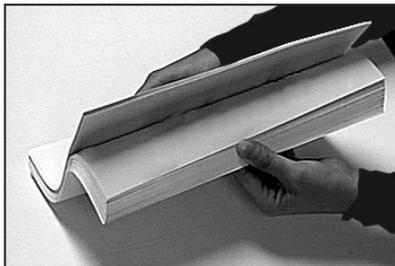
## 2・操作

### シートフィーダーの設定

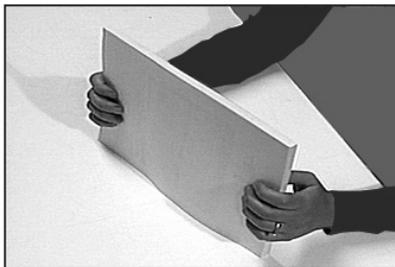
1. セットする用紙の幅に合わせてサイドガイドを調整してから、サイドガイド調整ノブを 4 分の 1 ほど元に戻します。これによって、ガイドと用紙の間に適当なすきまができます。



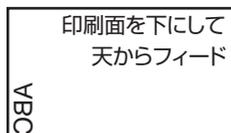
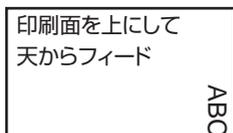
2. 用紙の束をパラパラとめくってさばきます。1 枚 1 枚の間に空気が入り、くっつきにくくなります。



3. 重ねた用紙の端を揃えて整えます。コピー機のカセットに用紙を入れるのと同様に、シートフィーダーに重ねた用紙を揃えて置きます。



4. ディスプレイには、用紙の正しい向きが表示されます。



5. 重ねた用紙をフィードデッキに置きます。デッキを押し下げて、重ねた用紙の上端をフィードローラーの下に滑り込ませます。



**注：**両方のシートフィーダーで「外三つ折り」を適用している場合、主要ドキュメント（宛先入り文書）には、シートフィーダー 2 を使用してください。

## 2・操作

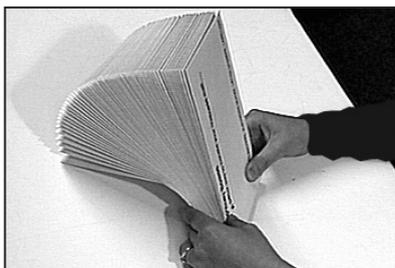
### 封筒フィーダーの設定

封筒フィーダーは、実行中の封入ジョブの封筒をフィードします。

1. セットする封筒の幅に合わせてサイドガイドを調整してから、サイドガイド調整ノブを半分ほど元に戻します。これによって、ガイドと封筒の間に適当なすきまができます。



2. 使用する封筒の束の封筒と封筒の間に空気を入れます。



3. 封筒をフラップを上にして終端からフィードデッキに置きます。最初の封筒の先端が前方フィードローラーの下になるようにして、封筒の束を図に示すように重ねてセットします。



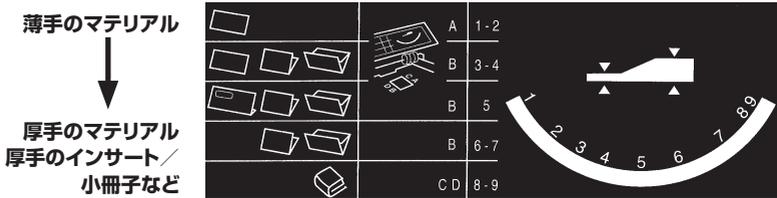
ウェッジをスライドさせながら下げて、封筒の束を支えます。

### インサートフィーダーの設定

1. セットする用紙の幅に合わせてサイドガイドを調整してから、サイドガイド調整ノブを 4 分の 1 ほど元に戻します。これによって、ガイドと用紙の間に適当なすきまができます。



2. インサートフィーダーに貼ってあるラベルを参照します。インサートを図と比べます。インサートフィーダーの青いレバー（番号 1～9）およびセパレータシールド（アルファベット A～D）の設定を見ます。

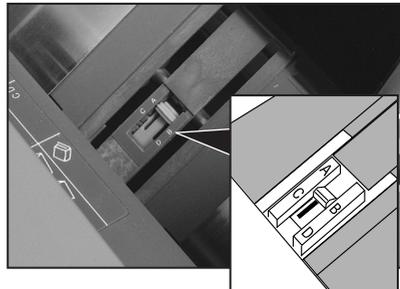


3. 青いレバーを該当する番号に合わせます。



4. セパレータシールドを該当するアルファベットに合わせます。

5. 処理を実行するインサートの間に空気を入れ、フィードデッキにセットします。インサートをセットする向きは、実際に処理するインサートによって変わります。ただし、通常は、インサートを次のようにセットしてください。



- |           |               |
|-----------|---------------|
| ペラもの      | 上向き、下端から      |
| 返信封筒      | 上向き、上端から      |
| 折られたインサート | 上向き、クローズエッジから |
| 小冊子       | 上向き、境界エッジから   |

ウェッジをスライドさせながら下げて、インサートの束を支えます。



## 2・操作

### 封緘水の補充

封緘ユニットに水の補充が必要なときは、ディスプレイに**封緘水補充**アイコンが点滅します。



次の方法で封緘水を補充します。

**注：**封緘水はできるだけ藻や水垢が付きにくいものを使用することをお勧めします。

本機の後部右側にある封緘水ボトルのカバーを開け、封緘水ボトルを取り出します。

表示されたレベルまで封緘水を入れます。

封緘水ボトルを元の位置に戻して、カバーを閉めます。



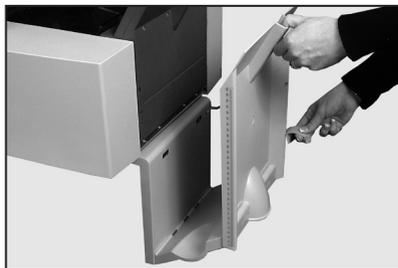
**注：**封緘ユニットが完全に空になっている場合は、時間をかけて封緘水が封緘ユニット全体に行き渡るようにしてください。

### スタッカーの調整

処理するマテリアルに合わせて排出スタッカーを調整できます。

スタッカー背面のレバーを持ち上げて、スタッカーを調節して事前にセットします。レバーを下ろして、スタッカーを調整した位置で固定します。

使用しないときは、スタッカーを縦にして、本機の排出エリアにラッチで留めておくことができます。



## ジョブの設定

ジョブは、ボタンを押すだけで実行することができます。

すべてのモデルに 20 種類のユーザー設定可能なジョブと弊社の担当者が設定できるデフォルト ジョブ (1 種類) があります。

## 新規ジョブの作成

ここでは、新しいジョブの設定手順と保存方法を説明します。

設定中、ディスプレイの設定する項目の横にアスタリスク (\*) が点滅します。  
**[バック]** (◀) と **[ツギへ]** (▶) ボタンを使って、前の設定項目、または後の設定項目に移動できます。項目が表示されたら、**[ヘンコウ]** (+/-) ボタンを使って、希望のオプションや数値を設定します。

**注:** 本機には、出荷時の標準装備または購入後の追加オプションとして、OMR (光学式マーク読み取り) 機能を装備できます。OMR ジョブを設定するには、本書の 3-10 ページを参照してください。OMR 以外のジョブを設定するには、「セットアップモード」で、続けてください。

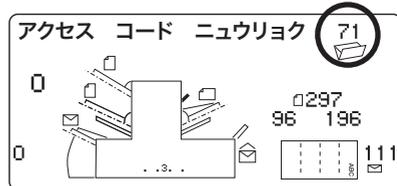
## セットアップモードの入力

ディスプレイの右側にある覆いを開けます。セットアップ用ボタンが現れます。

**[セットアップ]** を押します。インジケータが点灯し、アクセスコードの入力を求められます。このコードは不正に設定が変更されるのを防ぐためのものです。

**[ヘンコウ]** (+/-) ボタンを押して、アクセスコード **71** を選択します。

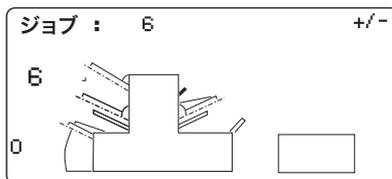
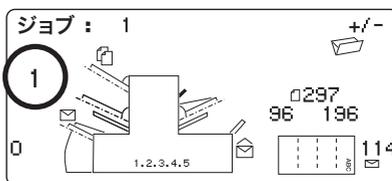
次の設定に進むには **[ツギへ]** (▶) を押します。



## 2・操作

### 新しいジョブナンバーの選択

新しい設定を保存するジョブナンバーを選択します。[ヘンコウ] (+/-) ボタンを使用して、該当するジョブナンバーを表示します。



#### 注：

- 既存のジョブナンバーを使用すると、古い設定は新しい設定で上書きされます。
- 現在使用されていないジョブナンバーを見つけたい場合は、[ヘンコウ] (+/-) を押して、ディスプレイでフィーダーや折り設定領域に記号のないジョブを探してください。これは、ジョブが現在、空であることを示しています。

次の設定に進むには [ツギへ] (▶) を押します。

### OMR

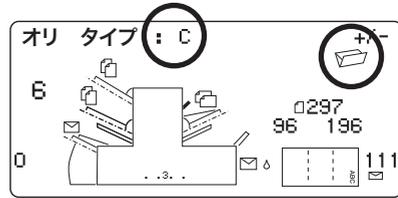
OMR を装備したモデルの場合のみ、ここで OMR モードを選択するように求められます。OMR 以外のジョブの場合、[ヘンコウ] (+/-) を使用して、[OMR オフ] を選択します (OMR ジョブを設定する場合は、3-10 ページを参照してください)。

次の設定に進むには [ツギへ] (▶) を押します。

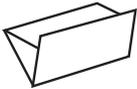
## 折りタイプ

折りタイプを選択します。

[ヘンコウ] (+/-) を押して、必要なオプションを設定します。



内三つ折り



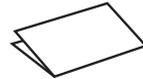
外三つ折り



四つ折り

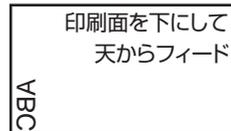
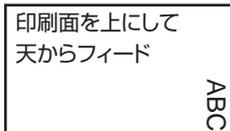


二つ折り



**注：名寄せジョブの場合、2-17 ページおよび 2-18 ページの「折りステップ A」および「折りステップ B」設定で自動設定された折り長さを手動で変更しないでください。**

折りタイプを選択すると、ディスプレイに用紙をフィーダーにセットする正しい向きが表示されます。



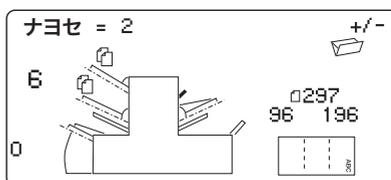
折りタイプを設定したら、[ツギへ] (▶) を押して、次の設定に進みます。

## 2・操作

### 名寄せ機能の設定

名寄せ機能を選択すると、同一フィーダーから複数のシートを封筒にフィードできます。

[ヘンコウ] (+/-) を押して、必要なオプションを設定します。



#### ナヨセ: オフ

このジョブに対して、名寄せ機能をオフにします。

### 1 & 2 ステーションモデル ...

#### ナヨセ: オン

このジョブに対して、名寄せ機能をオンにします。

### 3 ステーションモデル ...

#### メインシートフィーダー カラ ナヨセ

メインフィーダーからフィードされるシートで名寄せ機能がオンになっています。このフィーダーには通常、宛先シートが含まれます。

#### シートフィーダー カラ ナヨセ

補助シートフィーダーからフィードされるシートで名寄せ機能がオンになっています。つまり、メインフィーダーから 1 つの宛先シートがフィードされ、その後補助フィーダーから複数のシートが続きます。

次の設定に進むには [ツギへ] (▶) を押します。

#### ナヨセ = (2 ~ 10)

[ヘンコウ] (+/-) を使用して、各封筒にフィードするページ数を選択します。

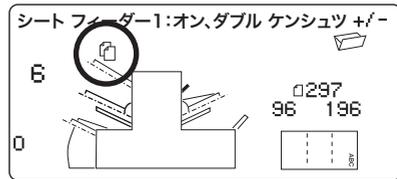
**重要:** 名寄せできるシート数は、機械の仕様によって制限されます。この制限を超えると機械が故障するおそれがあります。詳しくは、4-14 ページを参照してください。

## メインシートフィーダー（シートフィーダー 1）の設定

本機は選択した折りタイプに応じて、自動的にシートフィーダー 1 を選択して設定します。

**注：**両方のシートフィーダーを使用して、異なるシートを丁合いする場合、主要ドキュメント（宛先入り文書）は、シートフィーダー 1 に**内三つ折り**および**四つ折り**で、シートフィーダー 2 に**外三つ折り**または**二つ折り**でセットする必要があります。1 枚のシートのみ使用する場合は、いずれかのシートフィーダーを使用できます。または、下記の「リンクフィーダー」機能を利用して、両方のシートフィーダーを使用できます。

[**ヘンコウ**] (+/-) を押して、必要なオプションを設定します。



### 二重検知機能オン (オン、ダブルケンシュツ)

二重検知機能を動作させて、フィーダーを使用します（二重検知機能は、フィーダーから同時に 2 枚以上のシートが送り込まれた場合に機械を停止させます）。

### オフ

フィーダーは、このジョブに対してオフになります。



### オン

フィーダーは、二重検知なしで、オンになります。



### 手差しフィード

丁合いセットを手動でフィードできます（シートフィーダー 1 でのみ使用できます。次ページの注も参照してください）。



### リンク：オン

### リンク：オン、ダブルケンシュツ

これらの機能は、3 ステーションモデルでのみ使用できます。最初は、シートフィーダー 1 からフィードされます。フィーダーが空になると、自動的にシートフィーダー 2 からのフィードに切り替わります。

テストを行う場合には、両方のフィーダーにテスト用紙をセットしてください。テスト用紙は各フィーダーからフィードされます。

続き...

## 2・操作

### 手差しフィードに関する注意：

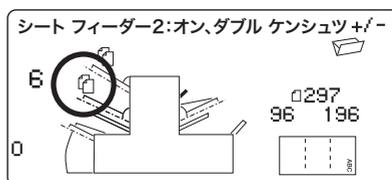
1. 手差しフィード設定により、ホッチキス留めした セットを 5 シート（1 セット当たり 400g/m<sup>2</sup>）まで実行できます。折った後の最大の厚みが 2mm を超えてはなりません。本機は各セットがシートフィーダー 1 に手差しで挿入されるのを待って、セットを自動的に折り、挿入します。
2. 手差しフィードモードを実行すると、シートフィーダー 2 を操作できなくなります。

シートフィーダーを設定したら、[ツギへ] (▶) を押して、次の設定に進みます。

### 補助シートフィーダー（シートフィーダー 2）の設定

シートフィーダー 2 を使用するかどうかを選択します。

[ヘンコウ] (+/-) を押して、必要なオプションを選択します。



#### 二重検知機能オン（オン、ダブルケンシュツ）

二重検知機能を動作させて、フィーダーを使用します（二重検知機能は、フィーダーから同時に 2 枚以上のシートが送り込まれた場合に機械を停止させます）。



#### オン

フィーダーは、二重検知なしで、オンになります。

#### オフ

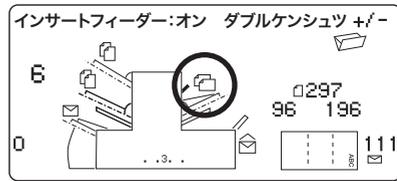
フィーダーは、このジョブに対してオフになります。

シートフィーダー 2 を設定したら、[ツギへ] (▶) を押して、次の設定に進みます。

## インサートフィーダーの設定

インサートフィーダーを使用するかどうか、使用する場合は使用方法を選択します。

[**ヘンコウ**] (+/-) を押して、必要なオプションを選択します。



### 二重検知機能オン (オン、ダブル ケンシュツ)

二重検知機能を動作させて、フィーダーを使用します (二重検知機能は、フィーダーから同時に 2 枚以上のインサートが送り込まれた場合に機械を停止させます)。



### オン

フィーダーは、二重検知なしで、オンになります。

### オフ

フィーダーは、このジョブに対してオフになります。

インサートフィーダーを設定したら、[**ツギへ**] (▶) を押して、次の設定に進みます。

## モード

本機では、ジョブが封筒への封入が必要なジョブか、折りだけのジョブかを確定する必要があります。

[**ヘンコウ**] (+/-) を押して、オプションを切り替えます。

### 封入モード

封筒フィーダーを作動させて、通常の封入操作にします。

### 紙折専用モード

封筒フィーダーを止めて、本機は折りだけを行います。

モードを設定したら、[**ツギへ**] (▶) を押して、次の設定に進みます。

## 2・操作

---

### シーラー

この設定は封入モードが選択された場合にだけ表示されます。

封筒を封緘するかどうかを選びます。

[**ヘンコウ**] (+/-) を押して、オプションのオン／オフを切り替えます。



#### オン

シーラーをオンにして、封筒の自動封緘を行います。封緘水ボトルが封緘水でいっぱいであることを確認してください（2-10 ページ参照）。



#### オフ

シーラーをオフにします。封筒は封緘されません。

シーラーを設定したら、[**ツギへ**] (▶) を押して、次の設定に進みます。

どちらかのシートフィーダーを選択した場合は、次に紙の長さの設定をします。ただし、インサートフィーダーを使用している場合、折りはできないため、ディスプレイには、2-18 ページの「封筒の深さ」の設定が表示されます。

## 紙の長さ

紙の長さを選択します。

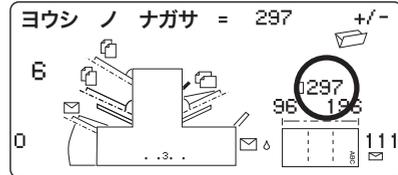
前面カバーの端にあるスケールを使用します。

参考：

**A4 サイズの長さ 297mm**  
**米国レターサイズの長さ**  
**11 インチ (279mm)**



【ヘンコウ】 (+/-) を押して、求める紙の長さ (ミリ単位) を表示します。

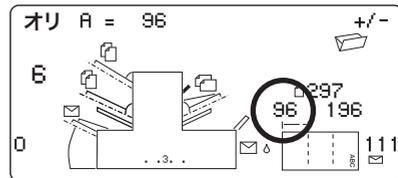


紙の長さの設定が完了したら、【ツギへ】 (▶) を押して、次の設定に進んでください。

## 折りステップ A

最初の折りに必要な寸法を設定します。

折りタイプと用紙の長さの設定に準じて、最初の折りの正しい寸法が表示されます。したがって、たいていの場合、この設定を変更する必要はありません。



「標準」設定を変更したい場合は、必要な折りの長さが表示されるまで、【ヘンコウ】 (+/-) を押します。ディスプレイの | —— | 記号は、調整している折りの面を示しています。

本機は、機械仕様の制限内で現実的に可能な選択を自動的に行ないます (折りステップの長さ A を変更すると、折りステップ B の寸法が紙の長さで機械仕様の範囲内で自動的に変更されます)。

設定が完了したら、【ツギへ】 (▶) を押して、次の設定に進んでください。

## 2・操作

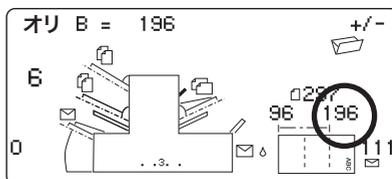
### 折りステップ B

2 番めの折りに必要な寸法を設定します。

折りステップ A と同様に、折りの正しい寸法が表示されます。

「標準」設定を変更したい場合は、必要な折りの長さが表示されるまで、**[ヘンコウ]** (+/-) を押します。ディスプレイの |——| 記号は、調整している折りの面を示しています。

設定が完了したら、**[ツギへ]** (▶) を押して、次の設定に進んでください。



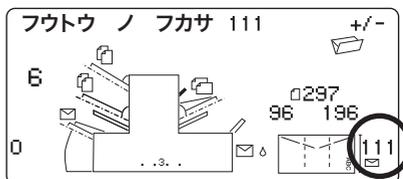
封入ジョブを設定している場合、次に封筒の深さの設定が表示されます。設定しているジョブが「折り」だけの場合、ディスプレイは 2-20 ページの「ジョブ設定の確認」の項が表示されます。

### 封筒の深さ

封筒の深さ（ミリ単位）を設定します。

ここでも、前面カバーのスケールを使用して、封筒の深さを測ることができます。

**[ヘンコウ]** (+/-) を押して、正しい寸法を表示させます。



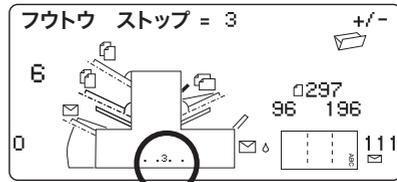
封筒の深さを設定したら、**[ツギへ]** (▶) を押して、次の設定に進みます。

## 封筒ストップ

本機のインサートエリアでの封筒の停止位置を設定します。

封筒ストップには、1～5 までのポジションがあります。ポジション 3 は、紙の重さと折りが「標準」の設定です。より薄く軽いものの封入は小さい数字のポジションにし、より厚く重いものの封入は大きい方のポジションにします。

[**ヘンコウ**] (+/-) を押して設定するポジション番号を表示させます。



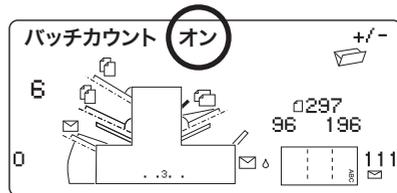
封筒ストップを設定したら、[**ツギへ**] (▶) を押して、次の設定に進みます。

## バッチカウンター

バッチカウンターは、あらかじめ決められた一定量の封入封緘作業を自動的に処理します。すべての処理が終了すると、本機は自動的に止まります。[**スタート**] を押すと、次のバッチ処理が開始されます。

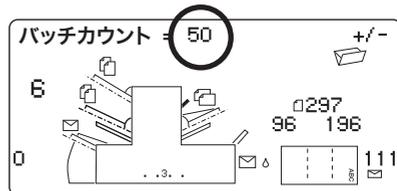
バッチカウンターを使用しない場合、表示カウンターは、**カウンターリセット** を押してリセットするまで、処理されたアイテム数をカウントします。

[**ヘンコウ**] (+/-) を押して、バッチモードのオン/オフを切り替えます。



設定が完了したら、[**ツギへ**] (▶) を押します。

バッチカウンターをオンにした場合は、バッチの枚数を入力する必要があります。デフォルトの枚数は 50 です。[**ヘンコウ**] (+/-) ボタンを押して、1～999 の範囲で任意の枚数を設定できます。

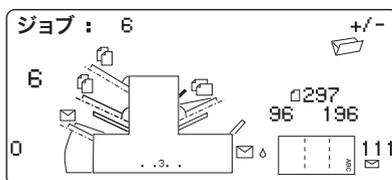


設定が完了したら、[**ツギへ**] (▶) を押します。

## 2・操作

### ジョブ設定の確認

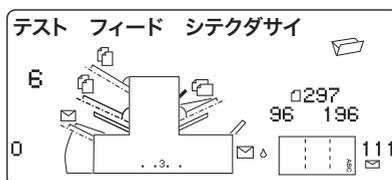
これでジョブ設定が完了しました。ディスプレイには、ジョブ設定の完了確認画面が表示されます。



設定が間違っている場合は、[バック] (◀) ボタンを押して戻り、訂正してください。

ジョブ設定がうまく行ったら、[セットアップ] ボタンを押してください。ジョブは新規ジョブとして保存されます。

保存されると、新しいジョブの設定内容とメッセージ「テスト フィード シテクダサイ」がディスプレイに表示されます。



ジョブ設定は、**電源が切れた場合でも**本機に保存されますが、次のページに記載されているような場合には変更または削除されます。

## ジョブのテスト

マテリアルをセットし、[テスト] を押して、セットアップが適切かどうかを確認できます。

テストで微調整が必要な場合、この段階でジョブ設定に多少の変更を加えることができます。[セットアップ] を押し、[バック] (◀)、[ツギへ] (▶) および [ヘンコウ] (+/-) ボタンを使用して、必要に応じてジョブ設定を変更します。次の表は、折り設定の微調整に便利です。

折りタイプ	住所が低過ぎる場合	住所が高過ぎる場合
内三つ折り	ステップ A の寸法を減らす	双方とも同寸法分だけ ステップ A の寸法を増やす ステップ B の寸法を増やす
外三つ折り	ステップ A の寸法を増やす	双方とも同寸法分だけ ステップ A の寸法を増やす ステップ B の寸法を増やす
二つ折り	ステップ A の寸法を増やす	ステップ A の寸法を減らす
四つ折り	ステップ A の寸法を減らす	ステップ A の寸法を増やす

折り寸法は 1 回に 5mm ずつ変更し、設定をテストするために新たにテストを実行することをお勧めします。

必要な変更を行ったら、[セットアップ] をもう一度押して、実行モードに戻ります。ジョブは新しい設定で保存されます。

## 2・操作

---

### ジョブの変更

既存のジョブを変更するには、以下の手順に従ってください。

1. 2-9 ページのセットアップモードに入ります。
2. [ヘンコウ] (+/-) ボタンを使って、変更したいジョブを表示します。
3. [バック] (◀)、[ツギへ] (▶) ボタンを使って、変更したい設定を表示します。
4. [ヘンコウ] (+/-) ボタンを使って、修正したいオプションや寸法を変更します。
5. [セットアップ] ボタンを押して、セットアップモードを解除し、変更を保存します。

### ジョブの削除

メモリから既存のジョブを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. 2-9 ページのセットアップモードに入ります。
2. [ヘンコウ] (+/-) ボタンを使って、削除したいジョブを表示します。
3. [デリート] ボタンを押します。ディスプレイには、「モウイチド オシテクダサイ」と表示されます。[デリート] をもう一度押します。ジョブが削除されると、ディスプレイに短時間「ジョブ ショウキョ」と表示されます。
4. [セットアップ] ボタンを押して、セットアップモードを解除します。

## OMR の使用

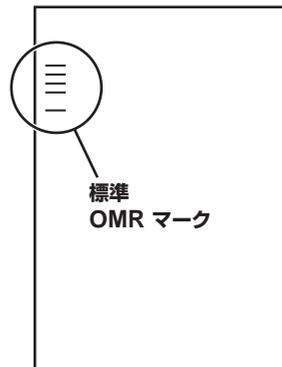
本機には、購入時に、または購入後の追加オプションとして、光学式マーク読み取り（OMR）機能を装備できます。

すべてのモデルに 20 種類のユーザー設定可能なジョブと弊社の担当者が設定できるデフォルト ジョブ（1 種類）があります。

## OMR とは

OMR マークは通常、淡色の用紙に印刷された濃い色の実線で、用紙の搬送方向に垂直に印刷されています。この線は、システムの OMR スキャナが正しく反応するのに十分な太さと濃さである必要があります。

OMR スキャナは、OMR システムソフトウェアと連動して、システムによってフィードされる文書上にある 1 つ以上の各種 OMR マークを確認します。これらの OMR マークをトラッキングすることにより、シートセットは、実際の封入処理全体を通して、ばらばらになることなく、セットのままである可能性が高くなります。



[バック] (◀) と [ツギへ] (▶) ボタンを使って、前の設定項目、または後の設定項目に移動できます。項目が表示されたら、[ヘンコウ] (+/-) ボタンを使って、希望のオプションを設定します。

## OMR の簡単な概要

1 つのシートフィーダーに OMR マーク付きシートをセットします。

- 内三つ折りおよび四つ折り時はシートフィーダー 1
- 外三つ折りおよび二つ折り時はシートフィーダー 2

OMR マーク付きのシートをセットしたシートフィーダーは 1 枚の封筒に複数のシートをフィードできます。

OMR シートをセットしていないシートフィーダーには、マークなしシートをセットして OMR シートによって制御することが可能です。

## 3・OMR

---

OMR シートによって制御されるようにインサートフィーダーを設定することもできます。これにより、OMR を使用して、1 つの封筒に 1 つのフィーダーからさまざまな数のシートを封入でき、補助シートやインサートの有無を指定することもできます。

補助シートや折りたたんだインサートは、封筒内の最初のシートと入れ子になります。OMR の機能を使うと、封筒ごとに中身を変更できるため、封筒内の最後のシートに窓付きの封筒で使用する宛先情報を含めて、シートのセットごとに正しい受信者の宛先が表示されます。

本機の OMR では、広範なエラーチェック機能を使用しているため、間違ったシートのセットが封筒に封入される可能性は非常に低くなっています。

### OMR のレベル

**基本 OMR**：シートの数異なる複数ページの文書を丁合いです。OMR マークを使って、ある封筒から別の封筒へと実行する間に、封筒ごとに封入するページ数を変更できます。本機では、セットの最後のシートから始めて、宛先シートが挿入されるまで折りたたんだ各シートを追加して、各 OMR シートを個別に折りたたんで封筒に封入します。続いて、本機は封緘が終了したあと（封緘を選択した場合）、封筒を排出します。

**拡張 OMR**：動作中に選択した位置でシートのフィードを停止したり、他のフィーダーを使用するかどうかを選択することができます。また、郵便物の整合性のレベルを上げて、機密書類が間違った顧客に送付されないようにすることができます。

### OMR マークの位置

OMR スキャナーを機械に取り付けて、印刷された OMR マークを読み取ることができるように、マークはページ上の決められた範囲内の位置に印刷する必要があります。

**標準 OMR 位置**は、3-4 ページ図に示しています。

**オフセット OMR 位置**では、マークをページのかなり下の部分に印刷することができます。仕様は、3-5 ページの図に記載されています。オフセット OMR を使用するには、OMR ジョブを設定するときに「オフセットの」OMR 機能の 1 つを選択する必要があります。詳しくは、3-10 ページを参照してください。

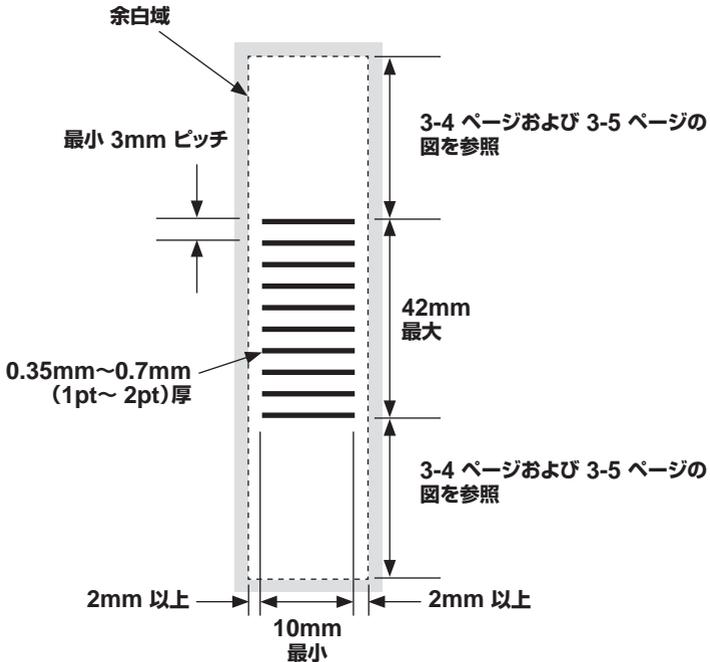
## OMR の仕様

マークは、太さが 0.35mm ~ 0.7mm (1pt ~ 2pt)、幅が 10mm 以上の黒の実線でなければなりません。

各マークの位置は、均等な間隔で 3mm 以上離れていなければなりません。

マーク周辺のエリアには、誤ってスキャナーで読み取られる可能性のあるものがないようにしてください。このエリアを、余白域と呼びます。

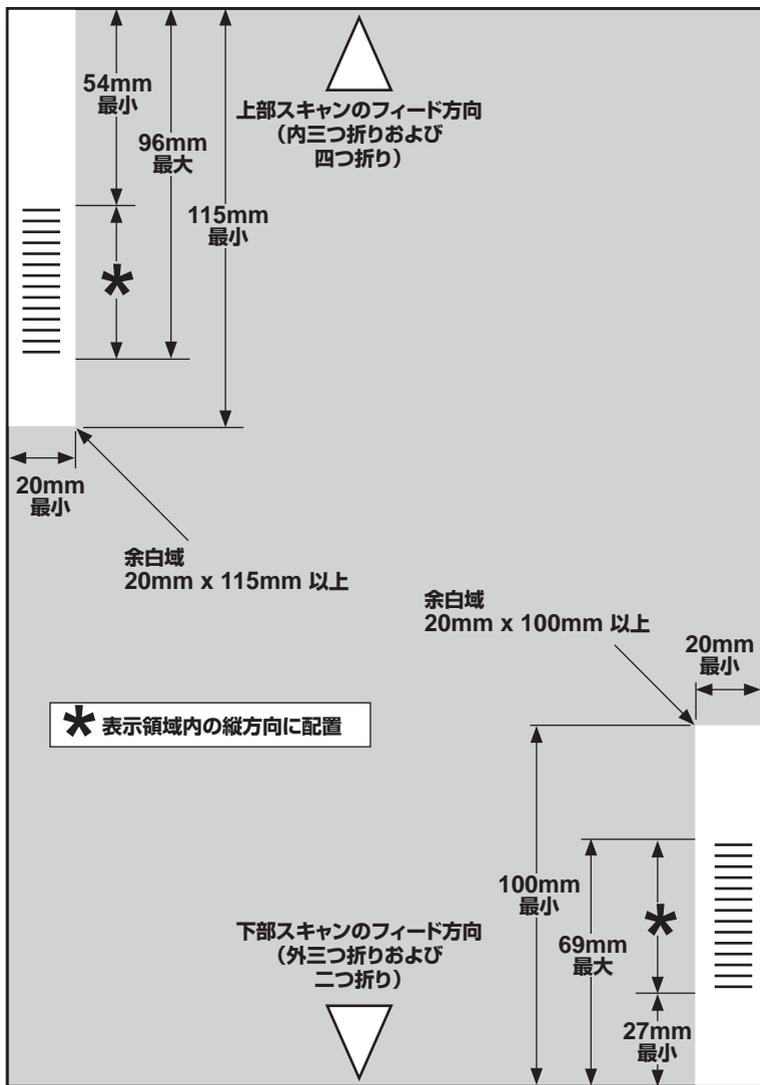
用紙の余白域の真裏には、何も印刷しないようにしてください。



図は原寸ではありません

# 3・OMR

## 「標準」 OMR 位置

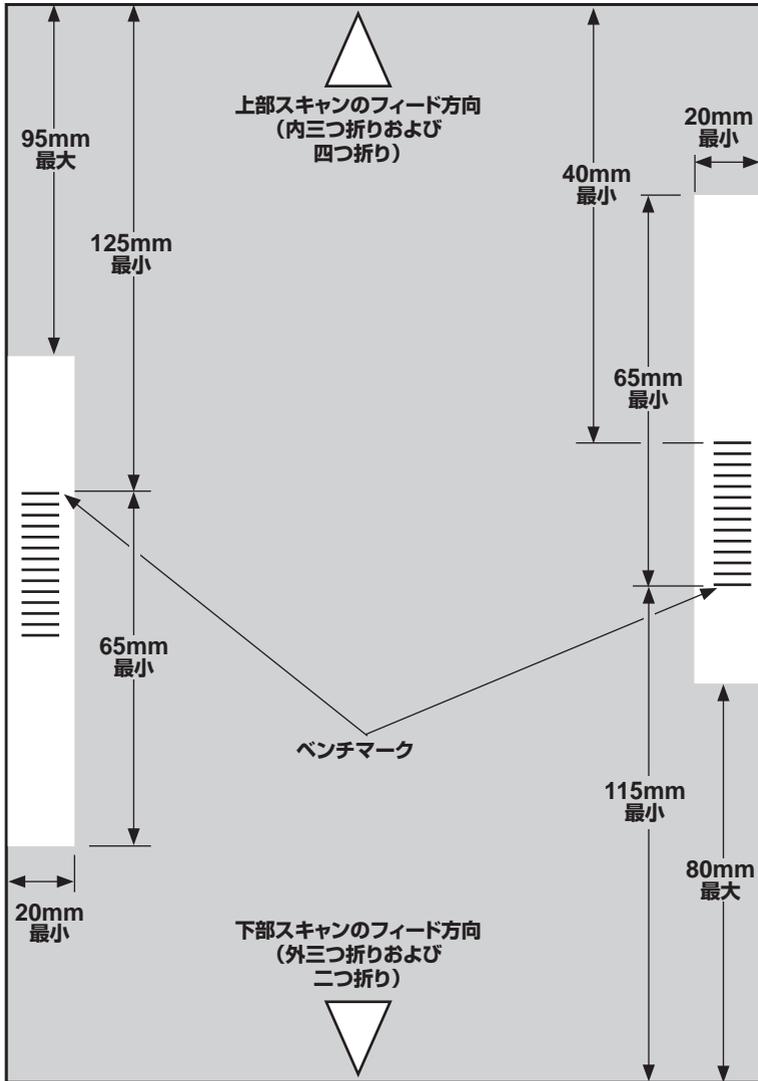


OMR マークは次の位置に印刷してください。

内三つ折りおよび四つ折り: 上部スキャン、左上隅  
外三つ折りおよび二つ折り: 下部スキャン、右下隅

図は原寸ではありません

「オフセット」 OMR 位置



OMR マークは次の位置に印刷してください。

内三つ折りおよび四つ折り: 上部スキャン、左余白  
 外三つ折りおよび二つ折り: 下部スキャン、右余白

図は原寸ではありません

## 3・OMR

---

### 使用できる OMR マーク

ここでは、OMR コードに割り当てることができる、または割り当てて必要のある OMR マークについて簡単に説明します。

**注：**ここで説明するマークの一部は、OMR の機能を拡張する追加機能として使用できます。詳細は、機器の販売元にお問い合わせください。使用できる OMR 機能は、国によって異なります。

### ベンチマーク

これは必須マークです。これは、コードの**最初の**マークでなければならず、セット内の**すべての**ページに表示されます。

### セーフティ

これは郵便物の整合性を向上させる必須マークです。自動的に、ベンチマークのすぐ後に置かれます。

### 名寄せ終了 (EOC)

このマークは、**丁合い／セット内でフィードされた最後のシート** (宛先シート) であることを示します。

システムは、このマークが**なくても**動作します。すなわち、マークがスキャナーに読み取られない場合でも、動作します。このため OMR コードは、「**Not EOC**」です。

### 名寄せ開始 (BOC)

**丁合い／セット内にフィードされる最初の用紙**を示します。

システムは、このマークが**なくても**動作します。すなわち、マークがスキャナーに読み取られない場合でも、動作します。このため OMR コードは、「**Not BOC**」です。

### パリティ

このマークは、印刷されると必ずマークの合計数が偶数になる**セキュリティ機能**です。スキャン中にコード内のマークのどれか 1 つが失われると、本機は機能を停止して、エラーを修正できるようにします。

## リタイミングマーク

このマークは、OMR マークの各グループに必須で、コードを構成します（この項の後半の「OMR マークのグループ」参照）。

正確にスキャンするように再調整できます。リタイミングマークは、パリティ計算でカウントします。

## 選択フィード (SF1、SF2)

これらのマークは、**補助シートまたはインサートがセットされたフィーダーからのマテリアルのフィード**をセット単位で制御するのに使用されます。このため、選択フィードは、1 ステーションモデルでは使用できません。

**選択フィード 1** マークは、**メインシートフィーダー**で、**補助シートフィーダー**からのマテリアルを選択するために使用されます。すなわち、内三つ折りおよび四つ折りの場合、メインフィーダーは、シートフィーダー 1 です。外三つ折りおよび二つ折りの場合、メインフィーダーは、シートフィーダー 2 です。

**選択フィード 2** マークは、**メインシートフィーダー**で、**インサートフィーダー**からのマテリアルを選択するために使用されます。すなわち、内三つ折りおよび四つ折りの場合、メインフィーダーは、シートフィーダー 1 です。外三つ折りおよび二つ折りの場合、メインフィーダーは、シートフィーダー 2 です。

## 自動バッチ

このマークは、バッチ機能を使用している場合に、最後のバッチセットを識別します。この機能が必要な OMR セットのすべてのシートに印刷する必要があります。

## ラップアラウンドシーケンス (WAS1、WAS2、WAS3)

番号付けのシステムで、**一連のバイナリコード**を使用します。必要なページが含まれていなかったり、メールピースセット内の用紙の順序が乱れている場合、システムは処理を停止し、エラーメッセージを表示します。

コード内で 3 つのラップアラウンドシーケンスマークが使用されます。3 ビットの 0～7 で表記できます。ページには、0～7 の数字が順に振られ、再び 0 に戻ります。印刷処理が行われている間は、これが繰り返されます。

# 3・OMR

## OMR マークのグループ

各 OMR コードは、センサーに最も近い 2 つの固定マーク（ベンチマークとセーフティマーク）で始まります。これらのマークの後に 1 つ、2 つまたは 3 つのマークのグループが続き、各グループは 3 つのデータマークとその後に続く 1 つの固定マークで構成されます。各データマークは、その機能の必要性に応じて、付いていたり、付いていなかったりします。各コードはリタイミングマークで終わる必要があります。

基本 OMR モードでは、グループ 1 を使用します。

拡張 OMR モードでは、特定のジョブの必要に応じて、グループ 1 に加えてグループ 2 やグループ 3 を使用します。

## 内三つ折りおよび四つ折りジョブ

マークは、シート上部の左隅に印刷される必要があります。マークは上から下の順に印刷される必要があります。



フィード方向

グループ 1 (必須)	——	ベンチマーク(固定)
	——	セーフティ(固定)
	——	EOC なし
	——	BOC なし
	——	パリティ
	——	リタイミング(固定)
グループ 2	——	選択フィード 1
	——	選択フィード 2
	——	自動バッチ
グループ 3	——	リタイミング(このグループを使用している場合は固定)
	——	ラップアラウンドシーケンス 3 (WAS3)
	——	ラップアラウンドシーケンス 2 (WAS2)
	——	ラップアラウンドシーケンス 1 (WAS1)
	——	リタイミング(このグループを使用している場合は固定)

シートは丁合いの逆順に印刷される必要があります。このため、各セットで処理される最後のシートは、宛先シートであり、最初に処理されるシートは、各セットの最後のシートです。

**外三つ折り（Z 折り） および二つ折りジョブ**

マークは、シート下部の右隅に印刷される必要があります。マークは下から上の順に印刷される必要があります。

グループ 3	リタイミング(このグループを使用している場合は固定)
	ラップアラウンドシーケンス 1 (WAS1)
	ラップアラウンドシーケンス 2 (WAS2)
	ラップアラウンドシーケンス 3 (WAS3)
グループ 2	リタイミング(このグループを使用している場合は固定)
	自動バッチ
	選択フィード 2
グループ 1 (必須)	選択フィード 1
	リタイミング(固定)
	パリティ
	BOC なし
	EOC なし
	セーフティ(固定)
	ベンチマーク(固定)

フィード方向



シートは丁合いの順に印刷される必要があります。このため、各セットで処理される最初のシートは、宛先シートであり、最後に処理されるシートは、各セットの最後のシートです。

## 3・OMR

### OMR ジョブの設定

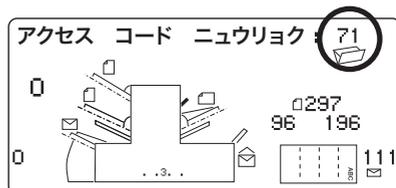
#### セットアップモードの入力

ディスプレイの右側にある覆いを開けます。セットアップ用ボタンが現れます。

[**セットアップ**]を押します。インジケータが点灯し、アクセスコードの入力を求められます。このコードは不正に設定が変更されるのを防ぐためのものです。

[**ヘンコウ**] (+/-) ボタンを押して、アクセスコード **71** を選択します。

次の設定に進むには [**ツギへ**] (▶) を押します。



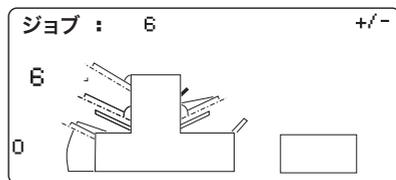
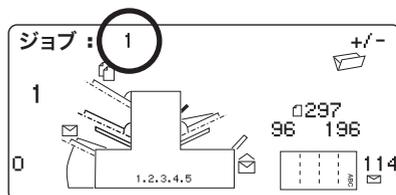
#### 新しいジョブナンバーの選択

新しい設定を保存するジョブナンバーを選択します。[**ヘンコウ**] (+/-) ボタンを使用して、該当するジョブナンバーを表示します。

#### 注:

- 既存のジョブナンバーを使用すると、古い設定は新しい設定で上書きされます。
- 現在使用されていないジョブナンバーを見つけたい場合は、[**ヘンコウ**] (+/-) を押して、ディスプレイでフィーダーや折り設定領域に記号のないジョブを探してください。これは、ジョブが現在、空であることを示しています。

次の設定に進むには [**ツギへ**] (▶) を押します。



## OMR 機能の選択

[ヘンコウ] (+/-) を押して、必要なオプションを設定します。表示されるオプションは、機械に装備されている OMR 機能によって異なります。「標準」および「オフセット」OMR の位置は、3-4 および 3-5 ページに記載されています。

### OMR オフ

このジョブに対して、OMR をオフにします。

### OMR オン

このジョブに対して、「標準」の OMR 位置で OMR をオン（基本スキャン）にします。

### OMR + シーケンス

このジョブに対して、「標準」の OMR 位置で、基本スキャン + ラップアラウンドシーケンススキャンを実行します。

### OMR + 選択フィード

このジョブに対して、「標準」の OMR 位置で、基本スキャン + 選択フィード/自動バッチスキャンを実行します。

### OMR + 選択フィード + シーケンス

このジョブに対して、「標準」の OMR 位置で、基本スキャン + 選択フィード/自動バッチスキャン + ラップアラウンドシーケンススキャンを実行します。

### OMR オフセット オン

このジョブに対して、「オフセット」の OMR 位置で OMR をオン（基本スキャン）にします。

### OMR オフセット + シーケンス

このジョブに対して、「オフセット」の OMR 位置で、基本スキャン + ラップアラウンドシーケンススキャンを実行します。

### OMR オフセット + 選択フィード

このジョブに対して、「オフセット」の OMR 位置で、基本スキャン + 選択フィード/自動バッチスキャンを実行します。

### OMR オフセット + SF + シーケンス

このジョブに対して、「オフセット」の OMR 位置で、基本スキャン + 選択フィード/自動バッチスキャン + ラップアラウンドシーケンススキャンを実行します。

続き...

## 3 • OMR

---

注：

**OMR (基本スキャン)** には、次のスキャン機能があります：

- ベンチマーク
- セーフティ
- EOC 名寄せ終了 マークなし (absent)
- BOC 名寄せ開始 マークなし (absent)
- パリティ
- リタイミング

**選択フィード／オートバッチ**には、次のスキャン機能があります：

- 選択フィード 1
- 選択フィード 2
- 自動バッチ
- リタイミング

**シーケンス**には次の機能があります：

- 3 つのラップアラウンドシーケンスマーク
- リタイミング

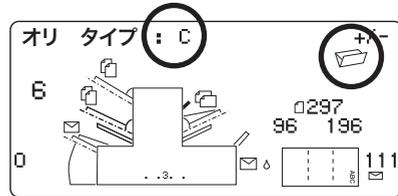
OMR を使用する場合、シートフィーダー 1 またはシートフィーダー 2 からフィードされるセット当たりの最大ページ数は、このガイドの 4-14 ページで説明している制限の範囲内でなければなりません。

次の設定に進むには [ツギへ] (▶) を押します。

## 折りタイプ

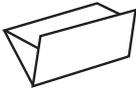
折りタイプを選択します。

[ヘンコウ] (+/-) を押して、必要なオプションを設定します。



注：OMR スキャンジョブの場合、「折りステップ A」と「折りステップ B」に自動で設定された長さは、手動で変更しないでください。

内三つ折り



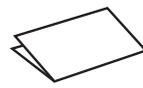
外三つ折り



四つ折り

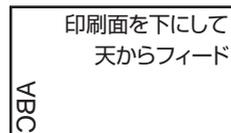
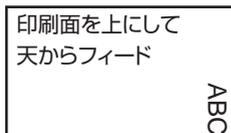


二つ折り



内三つ折りまたは四つ折りを選択した場合、自動的に上段のシートフィーダー 1 がスキャンフィーダーとして選択されます。外三つ折りまたは二つ折りを選択すると、自動的に下段のシートフィーダー 2 がスキャンフィーダーとして選択されます。

ディスプレイには、フィーダーに用紙をセットする正しい向きが表示されます。

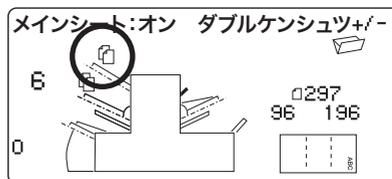


折りタイプを設定したら、[ツギへ] (▶) を押して、次の設定に進みます。

## 3・OMR

### メイン（スキャン）シートフィーダーの設定

[ヘンコウ] (+/-) を押して、必要なオプションを設定します。



#### 二重検知機能オン（オン、ダブル ケンシュツ）

二重検知機能を動作させて、フィーダーを使用します（二重検知機能は、フィーダーから同時に 2 枚以上のシートが送り込まれた場合に機械を停止させます）。



#### オン

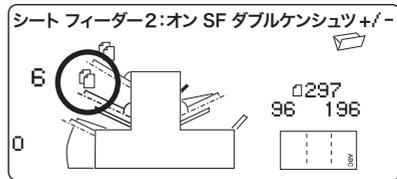
フィーダーは、二重検知なしで、オンになります。

必要なシートフィーダーを設定したら、[ツギへ] (▶) を押して、次の設定に進みます。

## 選択フィーダーと補助フィーダーの設定

[ヘンコウ] (+/-) を押して、必要なオプションを設定します。

シートフィーダー 1 がメインフィーダーまたはスキャンフィーダーである場合、シートフィーダー 2 とインサートフィーダーの両方、またはどちらかを標準 (1 封筒に 1 フィード) または選択フィードに設定できます。



シートフィーダー 2 がメインフィーダーまたはスキャンフィーダーである場合、シートフィーダー 1 とインサートフィーダーの両方、またはどちらかを標準 (1 封筒に 1 フィード) または選択フィードに設定できます。

選択フィードでは、封筒ごとどちらかのフィーダーから 1 ピースを選択的にフィードできます。



### 二重検知機能オン (オン、ダブル ケンシュツ)

二重検知機能を動作させて、選択フィードなしでフィーダーを使用します (二重検知機能は、フィーダーから同時に 2 枚以上のシートが送り込まれた場合に機械を停止させます)。



### 選択フィードで二重検知機能オン (オン SF ダブル ケンシュツ)

二重検知機能を動作させて、選択フィーダーを使用します (二重検知機能は、フィーダーから同時に 2 枚以上のシートが送り込まれた場合に機械を停止させます)。



### 選択フィードオン (オン SF)

選択フィーダーは、二重検知機能なしで、オンになります。

### オフ

フィーダーは、このジョブに対してオフになります。



### オン

フィーダーは、二重検知または選択フィードなしでオンになります。

フィーダーに必要な設定を完了したら、[ツギへ] (▶) を押して、シーラーの設定に進みます。続いて、このガイドの 2-16 ページに記載された標準手順に従ってジョブ設定を行います。

## 3・OMR

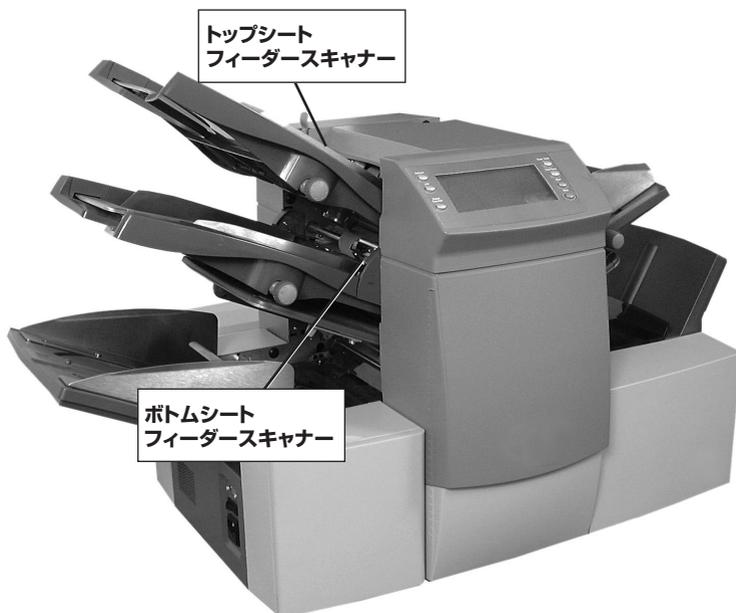
---

### OMR スキャナーの調整

OMR スキャンを正しく機能させるには、スキャンヘッドをマテリアルに印刷されたスキャン用破線に確実に合わせることが重要です。

上段シートフィーダー 1 のスキャンヘッドの位置を見つけるには、上部カバーを開けます。スキャンヘッドは、機械の後部にあります。

下段シートフィーダー 2 のスキャンヘッドの位置を見つけるには、シートフィーダー 2 とシートフィーダー 2 の下にある折りプレートの両方を取り外します。スキャンヘッドは、機械の前部に取り付けられています。



マテリアルのシートを半分に折り、図に示すように用紙の横から中央までの長さを測ります。

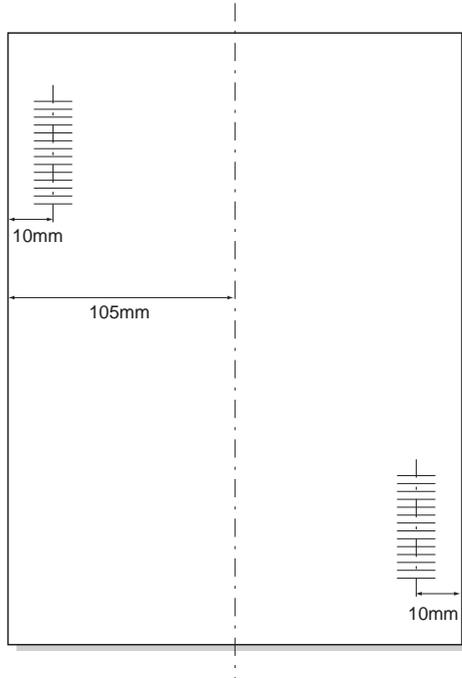
A4 サイズの場合、この長さは 105mm です。

次に、図に示すように用紙の端からスキャン用破線の中央までの長さを測って、この長さを半分に折った長さから引きます。

**例：**

A4 サイズの場合、半分に折った長さは **105mm** です。

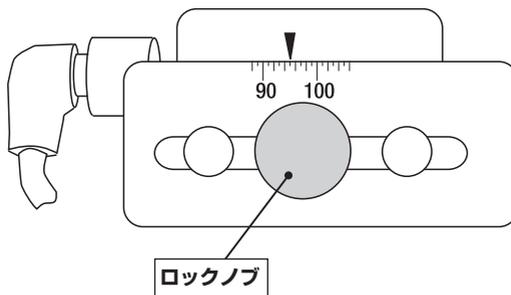
用紙の端から中央のスキャン用破線までの長さが **10mm** の場合、スキャンヘッドの設定は **95** ( $105 - 10$ ) mm になります。



ぎざぎざの形状をしたロックノブをゆるめて、適切なスキャンヘッドを正しく設定します。

ロックノブを締め直します。

ボトムシートフィーダースキャナーを調節した場合、シートフィーダー 2 とシートフィーダー 2 の下にある折りプレートを取り付け直します。



## 3・OMR

### OMR のトラブルシューティング

#### OMR ジョブのエラー回復

OMR ジョブ中に機械が停止して、下に示したエラーメッセージのいずれかが表示される場合、**【クリアーデッキ】** キーを押します。封入エリアに封筒があれば、スタッカーに排出されます。現在のセットの残りのページがフィードされたり、折られたりしてスタッカーに排出されるので、手で封筒に封入できます。次のセットの最初のページがフィードローラーにプリフィードされ、停止します。シートを通常のフィード位置に引き戻して、ジョブを続行します。

#### 名寄せジョブのエラー回復

名寄せジョブを実行中に本機が停止する場合は、**【クリアーデッキ】** キーを押します。封入エリアの封筒はスタッカーに排出されます。セットの残りのページを該当フィーダーから手で取り出して、折ったり、封筒に封入したりする必要があります。停止の原因がわかったら、ジョブを続行します。

#### フィーダーが空の場合のエラー回復

フィーダーのマテリアルがなくなると、本機は停止し、次のメッセージが表示されます。

「モウイチドトレイニセットシテ」

「スタートヲオシテ ツツケルカ」

「ストップヲオシテ デッキクリアシテクダサイ」

フィーダーを取り付け直して、必要に応じて次の操作に進みます。

#### OMR エラーメッセージ

メッセージ	説明
マーク スペースガ フテキトウデス	予測された長さの半分より近い間隔で 2 つのマークが読み取られています。マテリアル上のスキャンマークを確認してください。
マークガ アリマセン	用紙にマークがありません。スキャンセンサーがスキャンマークに対して、中心に位置していません。用紙が正しくセットされていません。
マーク コウセイガ チガイマス	用紙のコード タイプが設定と一致しません。例：設定は、「OMR+ シーケンス」だが、用紙は「OMR + 選択フィード + シーケンス」。

メッセージ	説明
マーク コウセイヨ カクニン	リタイミングスキャンマークがありません。マテリアルを確認してください。例：10 のマークコードからマーク 6 が見つかりません。
ナヨセ ジュンジョヨ カクニン：1	予測しなかった BOC マーク（位置 4）が存在します。セットの最初のページが開始ページと判断されました。
ナヨセ ジュンジョヨ カクニン：2	予測された BOC マーク（位置 4）が存在しません。セットの最初のページ以外が開始ページと判断されました。
OMR：パリティ エラー	コードに偶数のマークがありません。
OMR：シーケンス エラー	シーケンス番号が前にフィードされたページと連続していません。シートの順序が間違っているか、シートが見つかりません。
OMR：SF マーク ガ イッチシマセン	位置 7～9 の選択フィードおよび自動バッチマークがこのセットの以前のシートのマークと異なります。
OMR：SF シヨウシナイ	選択フィードマークが 7～8 の位置にありますが、ジョブ設定に選択フィードが含まれていません。
OMR：ナヨセ マイルスウガ オオキスギマス	セットに含まれるメインフィーダーからのシート数が多すぎます。
OMR：エンド オブ バッチ： レディ	これは、本機が「バッチの終了」により停止したことを示します。手で封筒を仕分けできます。
モードヘンコウ サイセットアップ	セットアップモードを終了する前に、実行しているジョブに対するシートフィーダーとインサートフィーダーの設定を確認する必要があります。



## 表示言語の変更

表示言語を変更するには、次の手順に従ってください。

1. ディスプレイの右側にある覆いを開けます。セットアップ用ボタンが現れます。[**セットアップ**] を押します。インジケータが点灯し、アクセスコードの入力を求められます。
2. [**ヘンコウ**] (+/-) ボタンを押して、アクセスコード **99** を選択します。
3. [**ツギへ**] (▶) を押して、言語オプションを選択します。
4. [**ヘンコウ**] (+/-) ボタンを押して、言語画面をスクロール移動します。希望の言語が表示されたら、[**セットアップ**] ボタンを押して、その言語を選び、セットアップモードを解除します。

## マテリアルの除去

**注：**以下の図はすべて 3 ステーションモデルを示していますが、どのモデルもすべて同様です。

本機は、最も効率的に処理が行われるように設計されています。用紙が詰まった場合には、ディスプレイに記号が点滅して、どこに障害が発生したかを示します。この場合、まず [**クリアデッキ**] を押して、用紙を機械から排出します。うまく行かない場合には、以下の項を参照してトレイを取り外し、用紙を取り除いてください。

## 手動クランク

問題箇所を特定できたら、手動クランクを使って、用紙をローラーから手動で排出するなどします。



手動クランクは、機械の左にある前面カバーを開けたところにあります。

## 4・リファレンス

### シートフィーダートレイの取り外しと取り付け

#### 取り外すには

トレイの後部を少し持ち上げて、外の方にまっすぐに引っ張って機械から外します。

#### 注：

トレイにマテリアルがセットされている場合は、マテリアルを軽く押さえて、トレイを取り外すときに滑り落ちないようにします。



#### 取り付けるには

トレイをサイドフレームの定位置ガイドに差し込みます。トレイの後部を軽く持ち上げて、機械に押し込みます。トレイは自動的に正しい位置に納まります。

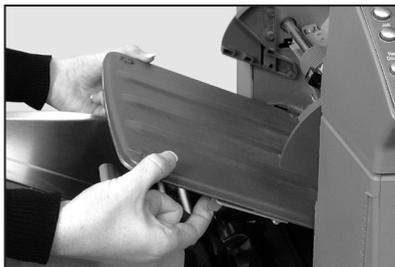
### 折りプレートの取り外しと取り付け

#### 取り外すには

プレートの下側にある 2 個の留め金を外側に引いてゆるめます。プレートをまっすぐ引いて機械から外します。

#### 取り付けるには

プレートの下側にある 2 個の留め金を外側に引いてゆるめます。プレートを定位置ガイドに滑り込ませて、留め金をずらして、プレートを定位置に固定します。



### インサートトレイの取り外しと取り付け

#### 取り外すには

インサートトレイをまっすぐに外の方に引いて機械から外します。

#### 取り付けるには

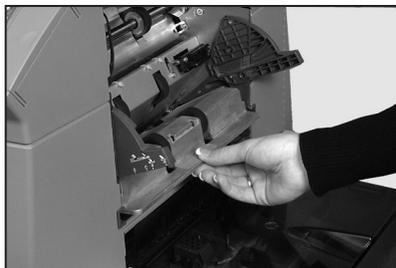
トレイを定位置ガイドに滑り込ませ、カチッと音がするまで押し込みます。



### キャリッジ部の取り扱い

(2 および 3 ステーションモデルのみ)。

キャリッジ部分は外側に引っ張ることができます。インサートフィーダーと折りプレート 2 は最初に取り外しておきます。



### 封筒フィーダーエリアの取扱い

#### 紙詰まりを取り除くには

解除レバーを矢印の方向に引きます。

詰まっている封筒のある場所のフィードローラーを持ち上げます。

#### フィードローラーを元に戻すには

封筒フィーダーエリアのフィードローラーをずらして、定位置に戻します。

ローラーをしっかり押し込み、定位置に固定します。

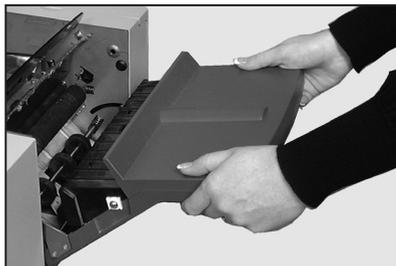
**注：**封筒フィーダーエリアで詰まった封筒を取り除く場合は、折りプレート 1 とシートフィーダー 2 を取り外しておくとうまく行きます。



### 封筒排出エリアの取扱い

図のようにアクセスカバーを下に引いて、紙詰まりの箇所へ手を入れます。

アクセスカバーを閉めるときは、しっかりと閉まったことを確認してください。



## 4・リファレンス

---

### 封筒の封入、封緘エリアの取扱い

薄い色のプラスチックカバーを持ち上げ、封筒インバーターアクセスカバーを下げて、封入、封緘エリアに手を入れることもできます。



### シートフィードエリアの取扱い

#### 紙詰まりを取り除くには

上部カバーを開けます。

2つの青い取っ手を一緒につまんで、ガイド部分を右方向に回してから、紙詰まりを除去します。

#### 元に戻すには

2つの青い取っ手を一緒につまんで、ガイド部分を元に回し戻して、しまい込みます。ガイド部分がしっかりと定位置に納まっていることを確認してから、2つの青い取っ手を放します。

上部カバーを閉めます。



## トラブルシューティング全般

問題	対応策	参考ページ
<b>本体</b>		
<b>ディスプレイに何も表示されない</b>		
電源が入らない	電源コードがしっかりと接続されていること、および壁のコンセントに電気がきていることを確認します。	1-1
機械の電源が入っていない	機械の左側にある電源スイッチをオンにします。	2-1
<b>機械が動作しない</b>		
カバーが開いている	すべてのカバーが閉まっているか確認します。ディスプレイでカバー位置を確認してください。	
フィードトレイや折りトレイが正しく装着されていない	フィーダーをすべて取り外し、しっかりとはめ込みます。	4-2
<b>封入時の問題</b>		
封入物が封筒に正しく入らない	封筒のトラブルシューティングの表を確認します。 選択した折りが処理中の用紙のサイズに対して正しいことを確認します。 用紙が重い場合や軽い場合は、封筒ストップ調整の変更が必要な場合があります。	4-6 2-17 2-18 2-19

## 4・リファレンス

問題	対応策	参考ページ
<b>封筒</b>		
<b>封筒がフィードできない</b>		
封筒サイドガイドの設定が正しくない	ガイドを封筒の幅に合わせて設定し、2 分の 1 元に戻します。	2-6
封筒の品質不良	封筒が丸まっていないか確認します。新しい封筒で試してみます。封筒をセットする前に必ず指でさばいて、封筒と封筒の間に空気を入れます。	4-15 2-6
封筒が正しくセットされない	封筒のフラップ面を上にして、フラップ反対側からフィードします。	2-6
<b>封筒が開いていない</b>		
封筒が正しくセットされない	封筒の先端が前方フィードローラーの下になるようにします。フラップを上に向けて、終端から封筒をセットします。	2-6
封筒の品質不良	湿気のために封筒同士が貼り付いていないか確認します。新しい封筒で試してみます。	4-15
<b>封筒の封緘に関する問題</b>		
封緘水がない	シーラーユニットに封緘水を補充します。	2-8
封緘モードが選択されていない	ジョブ設定を確認します。封緘モードをオンにします。	2-16

問題	対応策	参考ページ
<b>シート</b>		
<b>シートがフィードできない</b>		
フィーダーがフィードするように選択されていない	ジョブ設定を確認します。	2-13
シートフィーダーのサイドガイドが正しく設定されていない	ガイドをシートの幅に合わせて設定し、4 分の 1 元に戻します。	2-4
シートが正しくセットされない	封筒をセットする前に必ず指でさばいて、封筒と封筒の間に空気を入れます。	2-4
<b>複数のシートがフィードされる</b>		
手差しフィードモードが選択されている	ジョブ設定および手差しフィードレバーの位置を確認します。	2-2
シートが正しくセットされない	封筒をセットする前に必ず指でさばいて、封筒と封筒の間に空気を入れます。	2-4
<b>宛先が封筒の窓に正しく表示されない</b>		
宛先を印刷したシートが正しくセットされていない	宛先が封筒の窓に表示されるようにシートをセットします。	2-4
折りが正しく設定されていない	ジョブ設定を確認します。	2-17 2-18
<b>正しく折られていない</b>		
折りがほとんどシート上のミシン目と合っているため、「ボックス折り」になっている	折りサイズを微調整して、このような折りを防ぎます。	2-17 2-18

## 4・リファレンス

問題	対応策	参考ページ
<b>インサート</b>		
<b>インサートが正しくフィードされない</b>		
フィーダーがフィードするように選択されていない	ジョブ設定を確認します。	2-3、 2-20
インサートフィーダーのサイドガイドが正しく設定されていない	ガイドをインサートの幅に合わせて設定し、4分の1元に戻します。	2-6
インサートフィーダーセパレーターの調節が正しくない	2つのインサートフィーダーの（レバーとセパレータシールド）設定がインサートのタイプに対して正しいことを確認します。	2-7
インサートが正しくセットされない	封筒をセットする前に必ず指でさばいて、封筒と封筒の間に空気を入れます。インサートの束の向きを変えると問題が解決される場合があります。	2-7
インサートフィーダーのウェッジが正しくセットされていない	ウェッジを下にスライドさせて、インサートの束の後ろで支えるようにセットします。	2-7
インサートの仕様が異なる	本書で仕様を確認します。	4-15

問題	対応策	参考 ページ
<b>二重検知</b>		
<b>二重になっていないのに、機械が二重を検知して停止する、または二重になっているのに検知しないでフィードする</b>		
二重検知がオンになっていない	<p>二重検知機能のオン／オフを確認します。二重検知が動作している場合、すべてのアイテムの横に二重検知アイコン  が表示されます。</p> <p>マテリアルを正しくセットしているか、ジョブ設定が適切であるかを確認します。</p>	第 2 章
二重検知が正しく調整されていない	<p>新しいバッチの用紙をセットしたら、必ずテストを実行して、二重検知を再調整してください。新しいバッチでは、厚さが少し異なる場合があります。</p>	2-3

## 4・リファレンス

### エラーメッセージ

メッセージ	説明
サービス コール	機械の電源をいったん切って、もう一度入れてみてください。それでもメッセージが表示される場合は、弊社カスタマーサービス部までご連絡ください。
フィーダー ヲ チェック	表示されたフィーダーが用紙をフィードしていません。用紙をフィーダーから取り出し、セットし直してから、機械を再起動してください。
フィーダー ヲ シラベテクダサイ	表示されたフィーダーが正しく装着されていません。トレイを取り外して装着し直してください。表示されたフィーダーの用紙のセットを確認してください。
オリ プレート ヲ シラベテクダサイ	表示された折りプレートが正しく装着されていません。折りプレートを取り外して装着し直してください。
インバーター ヲ チェック シテクダサイ	封筒インバーターユニットが正しい位置に装着されていません。インバーターカバーを開けて、用紙の有無を調べ、カバーを閉めて、再起動してください。
サイゴ ノ フウトウ ヲ チェック	封筒が開いていません。封筒が正しくセットされているか確認してください。封筒をセットし直して、機械を再起動してください。
オリ プレート ノ ヨウシ クリア	折りプレートの内側に用紙が見つかったとディスプレイに表示されています。折りプレートを取り外して、用紙の有無を調べ、もう一度取り付けてください。
クリア インサート ブ	封入エリアに用紙もしくは封筒が見つかりました。機械の左側の薄いプラスチックカバーを開けて、用紙もしくは封筒を取り出してください。カバーを閉めて、再起動してください。
クリアー モイストナー	シーラーブラシエリアに封筒が見つかりました。機械の左側の薄いプラスチックカバーを開けて、用紙もしくは封筒を取り出してください。カバーを閉めて、再起動してください。
クリアー シーラー	シーラーブラシエリアに封筒が見つかりました。機械の左側の薄いプラスチックカバーを開けて、用紙もしくは封筒を取り出してください。カバーを閉めて、再起動してください。
カバー ヲ トジテクダサイ	表示されたカバーがしっかり閉まっていません。表示されたカバーを閉めて、再起動してください。

メッセージ	説明
ハンド クランク カバー ロ トジテクダサイ	手動クランクのカバーがしっかり閉まっていません。 カバーを閉めてください。
デフレクター エラー	半分折りの機能が何らかの原因で動いていません。 折りプレートを取り外して、用紙の有無を調べてください。
ダブル フィード	表示されたフィーダーから二重送りが検出されました。 機械から用紙を取り除き、再起動してください。 二重送りが繰り返される場合は、テストを繰り返してください。
ダブル チェック (スタッカー)	表示されたフィーダーから二重送りが検出されました。 スタッカーから二重送りされた用紙を取り除き、 機械を再起動してください。
オリ プレート ガ セット サレテイマセン	折りプレートが正しい位置にセットされていません。 折りプレートを取り外して、用紙の有無を調べてください。 折りプレートを再装着して再起動してください。
マニュアル フィード タイムアウト	フィーダーに入れられた用紙が見つかりません。 手差しフィードモードの場合は、設定時間内に用紙を フィードしてください。[スタート] を押して再起動 してください。
ヨウシ ガ ミジカスギマス	使用している用紙が短すぎます。使用する用紙の長さ が、表示されている長さに合っているかを確認し てください。正しい場合は、もう 1 度テストをして ください。
ヨウシ ショート チェック (スタッカー)	使用している用紙が短すぎます。使用する用紙の長さ が、表示されている長さに合っているかを確認し てください。正しい場合は、もう 1 度テストをして ください。
レバー ロ セット シテクダサイ	手差しモードに対してフィードレバーの位置が正しく ありません。レバーを正しい位置に移動してください (左：手動、右：自動)。
ストリーム フィード	フィーダーから 2 枚の用紙が同時にフィードされて います。本体から用紙を取り除き、セットし直して、 機械を再起動してください。

## 4・リファレンス

---

メッセージ	説明
ストリーム フィード チェック (スタッカー)	フィーダーから 2 枚の用紙が同時にフィードされています。スタッカーから同時にフィードされた用紙を取り除き、セットし直して、機械を再起動してください。
システム エラー デンゲン オフ	ソフトウェアに何らかの障害が見つかりました。電源をいったん切ってから、入れ直してください。エラー表示が繰り返される場合、弊社の担当者にご連絡ください。
ヨウシ ガ アリマセン	表示されたトレイに用紙がありません。トレイに用紙をセットし直して、 <b>【スタート】</b> を押してください。

## マテリアルの仕様

### シートフィーダー

最小用紙サイズ:	幅 127mm 長さ 127mm
最大用紙サイズ:	幅 229mm 長さ 406mm
紙質:	最小 60g/m <sup>2</sup> (OMR 非装備) 最小 70g/m <sup>2</sup> (OMR 装備) 最大 120g/m <sup>2</sup>

折りの仕様:	折りたたむ前の用紙の長さ制限
二つ折り:	127mm ~ 315mm
内三つ折り (C 折り):	150mm ~ 356mm
外三つ折り (Z 折り):	201mm ~ 356mm
四つ折り:	305mm ~ 406mm

二重検知マテリアルの範囲:	最小 60g/m <sup>2</sup> (16 lb) 最大 120g/m <sup>2</sup> (32 lb)
---------------	---

フィードトレイ収容能力: 最大で 325 シート、80g/m<sup>2</sup>

手差しフィードモード: 80g/m<sup>2</sup> の用紙を、ホッチキス留めで 1 セットに付き 5 枚まで、または全体で 400g/m<sup>2</sup> の重量まで処理できます (手差しフィードの場合)。シートフィーダー 1 (必要に応じてインサートフィーダー) だけが手差しフィードモードで使用できます。折った後の厚さは、2mm 以内に収めてください。光沢紙/コート紙はお勧めできません。

## 4・リファレンス

### 折りタイプおよび全体の厚さの制限

下の表は、用紙の紙質の違いに基づいて、積載または丁合いが可能な最大シート数を示しています。

これらの最大数を超えるジョブを本機に設定したり、OMR コード印刷や OMR 選択フィードで設定しないことが重要です。

シート数	紙質 (g/m <sup>2</sup> )		
	60-80	81-100	101-120
1	C、Z、S、D	C、Z、S、D	C、Z、S、D
2	C、Z、S、D	C、Z、S、D	C、Z、S
3	C、Z、S、D	C、Z、S	C、Z、S
4	C、Z、S	C、Z、S	
5	C、Z、S		

折りタイプ：C = 内三つ折り、Z = 外三つ折り、S = 二つ折り、D = 四つ折り

合計の郵便物の厚さが 2mm を超えない場合にのみ、上記のシート数制限に加えて、補助フィーダーから追加の 1 シートと 1 インサートを追加することができます。

60 ~ 75g/m<sup>2</sup> の用紙を使用する二つ折りの場合にのみ、1 枚の封筒に 10 アイテムまで封入できます。この 10 アイテムには、補助フィーダーからの追加のシートやインサートが含まれます。この場合でも、全体の厚さは 2mm までです。

### インサートフィーダー

**最小サイズ:** 幅 127mm  
長さ 82mm

**最大サイズ:** 幅 230mm  
長さ 152mm

**紙質:** 最小 75g/m<sup>2</sup> (折りのないカット紙)  
最大 180g/m<sup>2</sup> (1 枚の用紙)  
最小 60g/m<sup>2</sup> (折られたマテリアル)

および最大の厚さで 2mm までのインサート

あらかじめ折られた、または 1 枚板状のインサートは、インサートフィーダーからフィードしてください。

**二重検知マテリアルの範囲:** 最小 60g/m<sup>2</sup>  
最大 120g/m<sup>2</sup>

**フィードトレイ収容能力:** 最大で 100 シート

### シーラー

1 回の補給で最高 1200 通まで封緘できます。

### スタッカー

封筒スタッカーには封入物が入った封筒で約 150 通まで設置できます (封筒のサイズと封入物によって変わります)。

### マテリアルの条件

最高の性能を発揮するために、Pitney Bowes が承認したマテリアルのみを使用してください。

マテリアルは品質を維持したまま、適切に保管する必要があります。

推奨保管条件: 18° C (65° F) ~ 25° C (77° F)

相対湿度 40% ~ 60%

## 4・リファレンス

### 封筒フィーダー

最小封筒サイズ:	深さ 88mm 幅 220mm
最大封筒サイズ:	深さ 164mm 幅 242mm



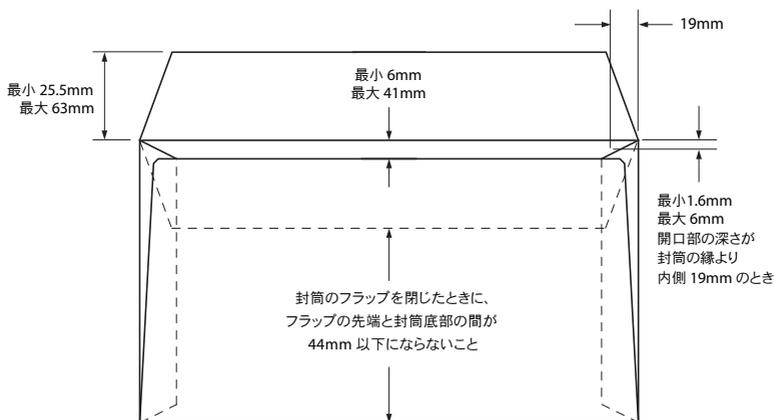
封筒の紙質:	最小 65g/m <sup>2</sup> 最大 100g/m <sup>2</sup>
--------	---

封筒トレイの収容能力: 最大で 100 (90g/m<sup>2</sup>) 通

端の余裕: インサートと封筒端の余裕は、両端で最小 6mm、合計で 12mm です。封筒に封入するすべての書類の寸法を測ってください。

深さの余裕: すっかり挿入した状態で封筒の蓋の折り目の下に、折りたたまない書類は最小で 3mm、折った書類では 6mm の余裕を持たせてください。

封筒の条件: 下図を参照



仕様はすべて、予告なしに変更されることがあり、またテスト済みです

## 機械の仕様

### 実寸法：

長さ	915mm
奥行き	510mm
高さ	610mm
幅	55kg

騒音レベル（運転中）： 73dBA

電源仕様： 230V、50Hz、3A  
または 110V、60Hz、6A

### 処理スピード：

最大 3,000 サイクル／時（折りのタイプと用紙の質により異なります）

折りモード： 二つ折り  
内三つ折り（C 折り）  
外三つ折り（Z 折り）  
四つ折り

### 法令準拠：



Pitney Bowes の Inserting System は、低電圧指令 73/23/EEC および EMC 指令 89/336/EEC に準拠していることを証明します。本製品は、一般的な設定の状態ですべてのテストに合格しています。

## サービス

DI380 インサートシステムの保守サービスは、世界中でご利用いただけます。本機に関してのご質問、特定用途で利用する際のサポートに関しては、当社までご連絡ください。

弊社代理店からご購入の際も、サービス保守契約により、低料金にて機械を最高の状態でご利用いただけます。

詳細は、機械に同梱の小冊子または本書の裏表紙をご覧ください。

## 4・リファレンス

---

## ジョブ

下の表を使用して、システムに設定したジョブのメモを保存してください。

ジョブ	内容
デフォルト	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	

# ジョブ

---

ジョブ	内容
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

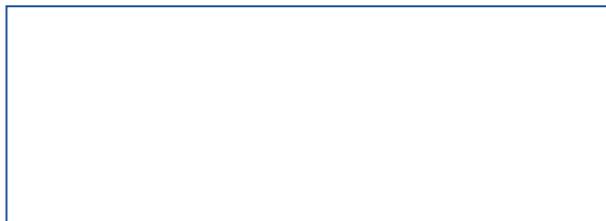




*Engineering the flow of communication™*

東京都品川区  
戸越 1-7-1 戸越 NI ビル  
<http://www.pbjapan.co.jp/>

サービスおよびサプライの提供元



PB フォーム SDC639A (2-06)

© Pitney Bowes Limited, 2006

本書の正確性および有益性を確保するためにあらゆる努力をしておりますが、誤記や遺漏または弊社の製品を誤って使用または適用された場合の責任については想定しておりません。

Printed in the Japan

 再生紙を使用しています

\*SDC639A\*

## マテリアルの仕様

### シートフィーダー

**最小用紙サイズ:** 幅 127mm  
長さ 127mm

**最大用紙サイズ:** 幅 229mm  
長さ 406mm

**紙質:** 最小 60g/m<sup>2</sup> (OMR 非装備)   
最小 70g/m<sup>2</sup> (OMR 装備)  
最大 120g/m<sup>2</sup> 

**折りの仕様:** 折りたたむ前の用紙の長さ制限  
二つ折り: 127mm ~ 315mm  
内三つ折り (C 折り): 150mm ~ 356mm  
外三つ折り (Z 折り): 201mm ~ 356mm  
四つ折り: 305mm ~ 406mm

**二重検知マテリアルの範囲:** 最小 60g/m<sup>2</sup> (16 lb)  
最大 120g/m<sup>2</sup> (32 lb)

**フィードトレイ収容能力:** 最大で 325 シート、80g/m<sup>2</sup> 

**手差しフィードモード:** 80g/m<sup>2</sup> の用紙を、ホッチキス留めで 1 セットに付き 5 枚まで、または全体で 400g/m<sup>2</sup> の重量まで処理できます (手差しフィードの場合)。シートフィーダー 1 (必要に応じてインサートフィーダー) だけが手差しフィードモードで使用できます。折った後の厚さは、2mm 以内に収めてください。光沢紙/コート紙はお勧めできません。

## 4・リファレンス

### 折りタイプおよび全体の厚さの制限

下の表は、用紙の紙質の違いに基づいて、積載または丁合いが可能な最大シート数を示しています。

これらの最大数を超えるジョブを本機に設定したり、OMR コード印刷や OMR 選択フィードで設定しないことが重要です。

シート数	紙質 (g/m <sup>2</sup> )		
	60-80	81-100	101-120
1	C、Z、S、D	C、Z、S、D	C、Z、S、D
2	C、Z、S、D	C、Z、S、D	C、Z、S
3	C、Z、S、D	C、Z、S	C、Z、S
4	C、Z、S	C、Z、S	
5	C、Z、S		

折りタイプ： C = 内三つ折り、Z = 外三つ折り、S = 二つ折り、D = 四つ折り

合計の郵便物の厚さが 2mm を超えない場合にのみ、上記のシート数制限に加えて、補助フィーダーから追加の 1 シートと 1 インサートを追加することができます。

60 ~ 75g/m<sup>2</sup> の用紙を使用する二つ折りの場合にのみ、1 枚の封筒に 10 アイテムまで封入できます。この 10 アイテムには、補助フィーダーからの追加のシートやインサートが含まれます。この場合でも、全体の厚さは 2mm までです。

### インサートフィーダー

**最小サイズ:** 幅 127mm  
長さ 82mm

**最大サイズ:** 幅 230mm  
長さ 152mm

**紙質:** 最小 75g/m<sup>2</sup> (折りのないカット紙)  
最大 180g/m<sup>2</sup> (1枚の用紙)  
最小 60g/m<sup>2</sup> (折られたマテリアル)

および最大の厚さ 2mm までのインサート

あらかじめ折られた、または板状のインサートは、インサートフィーダーからフィードしてください。

**二重検知マテリアルの範囲:** 最小 60g/m<sup>2</sup>  
最大 120g/m<sup>2</sup>

**フィードトレイ収容能力:** 最大で 100 シート

### シーラー

1回の補給で最高 1200 通まで封緘できます。

### スタッカー

封筒スタッカーには封入物が入った封筒で約 150 通まで設置できます (封筒のサイズと封入物によって変わります)。

### マテリアルの条件

最高の性能を発揮するために、Pitney Bowes が承認したマテリアルのみを使用してください。

マテリアルは品質を維持したまま、適切に保管する必要があります。

推奨保管条件: 18°C (65°F) ~ 25°C (77°F)

相対湿度 40% ~ 60%

## 4・リファレンス

### 封筒フィーダー

最小封筒サイズ： 深さ 88mm  
幅 220mm

最大封筒サイズ： 深さ 164mm  
幅 242mm



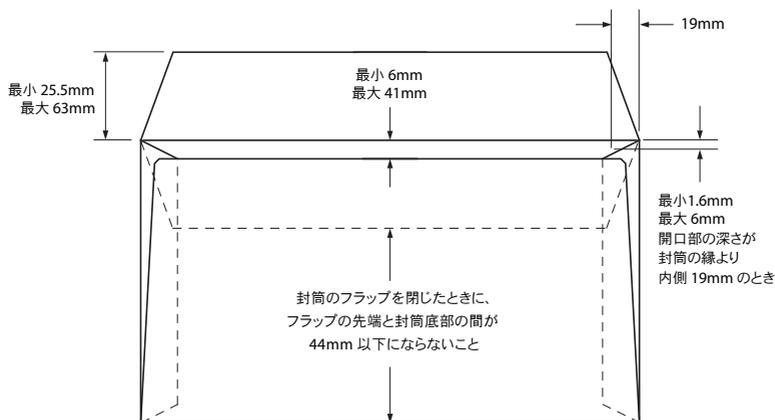
封筒の紙質： 最小 65g/m<sup>2</sup>  
最大 100g/m<sup>2</sup>

封筒トレイの収容能力： 最大で 10 ( ) 0g/m<sup>2</sup>) 通

端 ( ) 裕： インサートと封筒端の余裕は、両端で最小 6mm、合計で 12mm です。封筒に封入するすべての書類の寸法を測ってください。

深 ( ) 余裕： す ( ) の挿入した状態で封筒の ( ) 折り目の下に、折りたたまない書類は最小で 3mm、折った書類では 6mm の余裕を持たせてください。

封筒の条件： 下図を参照



仕様はすべて、予告なしに変更されることがあり、またテスト済みです

## 機械の仕様

### 実寸法：

長さ 9  mm  
 奥行き 5  mm  
 高さ 6  mm  
 重量 53kg

騒音レベル（運転中）： 73dBA

電源仕様： 230V、50Hz、3A  
 または 1  V、60Hz、6A

### 処理スピード：

最大 3,000 サイクル／時（折りのタイプと用紙の質により異なります）

折りモード： 二つ折り  
 内三つ折り（C 折り）  
 外三つ折り（Z 折り）  
 四つ折り

### 法令準拠：



Pitney Bowes の Inserting System は、低電圧指令 73/23/EEC および EMC 指令 89/336/EEC に準拠していることを証明します。本製品は、一般的な設定の状態ですべてのテストに合格しています。

## サービス

DI380 インサートシステムの保守サービスは、世界中でご利用いただけます。本機に関してのご質問、特定用途で利用する際のサポートに関しては、当社までご連絡ください。

弊  理店からご購入の際も、サービス保守契約により、低料金にて機械を最高の状態でご利用いただけます。

詳細は、機械に同梱の小冊子または本書の裏表紙をご覧ください。

## 4・リファレンス

---

## ジョブ

下の表を使用して、システムに設定したジョブのメモを保存してください。

ジョブ	内容
デフォルト	
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	

# ジョブ

---

ジョブ	内容
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

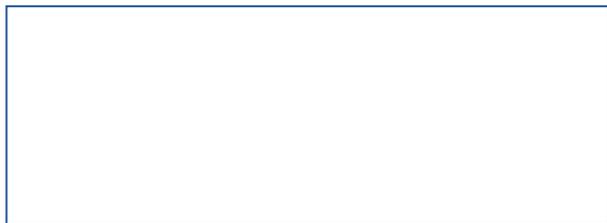




*Engineering the flow of communication™*

東京都品川区  
戸越 1-7-1 戸越 NI ビル  
<http://www.pbjapan.co.jp/>

サービスおよびサプライの提供元



PB フォーム SDC639A (2-06)

© Pitney Bowes Limited, 2006

本書の正確性および有益性を確保するためにあらゆる努力をしておりますが、誤記や遺漏または弊社の製品を誤って使用または適用された場合の責任については想定しておりません。

Printed in the Japan

 再生紙を使用しています

\*SDC  JA\*